

令和元年度

事業年報

公益財団法人 岡山県健康づくり財団

## はじめに

当財団は平成3年8月に設立されて以来、県民皆様の疾病予防や健康づくりを支援するとともに県や市町村の保健衛生、環境施策を補完する事業により地域に貢献することを目指して、健康診断事業をはじめ、各種環境検査事業、病院事業、健康づくり支援事業等に取り組んでまいりました。

この冊子は、当財団の令和元年度における事業内容の記録として作成したものであります。

ご高覧のうえご指導を賜りますとともに業務の参考としていただければ幸甚に存じます。

今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

理事長 松山正春



## 目 次

I	事業内容	1
II	役員名簿	2
III	組織	3
1	組織図	3
2	職種別、組織別職員数	4
IV	事業報告	
1	保健部	5
(1)	住民健診	5
1.	特定健診・後期高齢者健診	5
2.	肝炎ウイルス検査	7
(2)	保健指導	8
(3)	一般健康診断	9
(4)	特殊健康診断	10
(5)	胸部X線検診（結核検診・肺がん検診）	11
(6)	胃がん検診	15
(7)	子宮がん検診	18
(8)	乳がん検診	21
(9)	大腸がん検診	24
(10)	前立腺がん検診	27
(11)	骨粗鬆症検診	29
(12)	学校保健検査	30
1.	尿検査	30
2.	寄生虫検査	32
3.	貧血検査	34
4.	心臓検診	35
5.	小児生活習慣病予防健診	36
(13)	先天性代謝異常等検査	38
2	環境部	40
(1)	飲料水検査	40
(2)	簡易専用水道検査	42

(3) 浄化槽法定検査	4 4
(4) 岡山県浄化槽水質管理実施要綱に基づく検査	4 6
(5) 産業排水検査	4 8
(6) 河川水検査	5 0
(7) 食品検査	5 2
(8) 腸内細菌検査等	5 4
(9) その他の検査	5 5
3 精度管理室	5 6
4 食鳥検査事業	5 9
5 附属病院	6 2
(1) 外来状況	6 2
(2) 入院状況	6 3
(3) リハビリテーション	6 4
(4) 先進の医療機器による検査	6 4
(5) 安全・安心な患者満足度の高い医療の提供	6 4
(6) 地域連携の推進	6 5
(7) 結核医療連携拠点病院の指定	6 5
(8) 指導・相談	6 5
(9) 財団各部門との連携	6 6
(10) 難病相談・支援事業	6 6
6 南部健康づくりセンター	6 7
(1) 健康増進事業	6 7
1. ヘルスチェックの状況	6 7
2. 増進施設利用状況	6 9
3. お手軽教室	7 0
4. 健康づくり栄養講座及び外部講師料理教室	7 2
5. リラクゼーションセミナー	7 3
6. 健康増進指導体験事業	7 4
(2) 教育・研修部門事業など	7 4
1. 講師派遣事業	7 4
2. 図書の貸し出し	7 6
3. 大会議室・小会議室・栄養指導室・多目的聴講室	7 6

4. 研究室の開放	7 6
(3) 調査・研究事業	7 6
1. 業績	7 6
(4) 健康診断（人間ドック）部門	7 8
1. 人間ドック	7 8
2. 脳ドック	8 4
3. らせんCT胸部検診	8 4
(5) 健康診断（施設健診）部門	8 5
1. 健診種別件数	8 5
2. 岡山市がん検診要精密検査数	8 5
3. 特定健診保健指導対象者数	8 5
7 普及啓発事業	8 6
(1) 財団の広報	8 6
(2) 結核予防に関する事業	8 6
(3) がん予防に関する事業	8 7
(4) 禁煙の普及啓発に関する事業（岡山県禁煙問題協議会）	8 8
(5) 助成事業	8 9
(6) 会議等の開催	9 0

# I 事業内容

- (1) 健康づくり及び結核、がん、循環器疾患等の予防に関する知識の普及啓発及び調査研究
- (2) 健康づくりの実践活動に対する指導及び援助
- (3) 結核、がん、生活習慣病等の健康診査
- (4) 保健及び医療に関する情報の収集及び提供
- (5) 保健医療従事者及び健康づくり指導者の養成及び研修
- (6) 結核及び呼吸器疾患を中心とする医療
- (7) 保健及び医療に関する臨床検査
- (8) 食品衛生に関する試験検査
- (9) 浄化槽法定検査事業
- (10) 飲料水水質の試験検査
- (11) 簡易専用水道検査事業
- (12) 環境計量証明事業
- (13) その他生活環境の保全に関する試験検査
- (14) 食鳥検査事業
- (15) その他財団の目的を達成するために必要な事業

## II 役員名簿

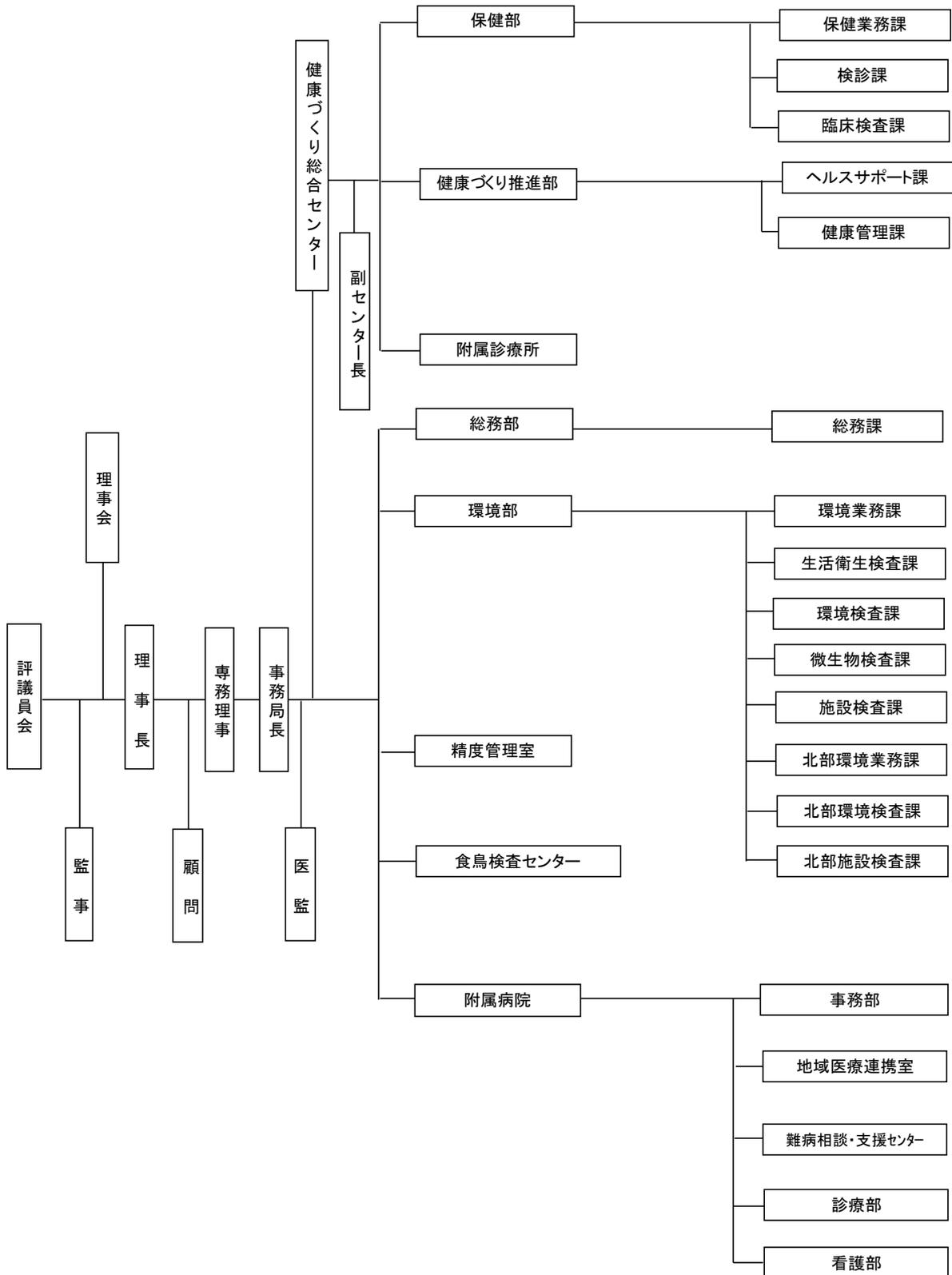
平成31年4月1日現在

役職名	氏名	備考
評議員	中谷 祐貴子	岡山県保健福祉部長
〃	清水 信義	岡山県医師会副会長
〃	難波 義夫	岡山県病院協会会長
〃	三浦 寛人	岡山市医師会長
〃	薄元 亮二	津山市医師会長
〃	大塚 愛二	元岡山大学医学部長
〃	内山 登	岡山県議会議員
〃	福永 仁夫	川崎医科大学長
〃	酒井 昭則	岡山県歯科医師会長
〃	堀部 徹	岡山県薬剤師会長
〃	萩原 誠司	元岡山県市長会長
〃	山崎 親男	岡山県町村会長
〃	岡崎 文代	岡山県愛育委員連合会長
〃	中島 玲子	岡山県栄養改善協議会長
理事長 (代表理事)	松山 正春	岡山県医師会長
専務理事 (業務執行理事)	徳田 浩一	岡山県健康づくり財団専務理事
理事	阪本文雄	山陽新聞社会事業団専務理事
〃	岡崎 邦泰	日本乳がん検診学会名誉会員
〃	坂本 八千代	岡山県栄養士会長
〃	宮田 明美	岡山県看護協会会長
〃	二宮 忠矢	岡山県健康づくり財団 健康づくり総合センター副センター長
〃	守安 秀徳	岡山県健康づくり財団環境部長
〃	西井 研治	医監 (兼)岡山県健康づくり財団附属病院長
〃	坪田 典之	元岡山県健康づくり財団 健康づくり総合センター保健部長
〃	関 明徳	岡山県健康づくり財団 健康づくり総合センター健康づくり推進部長
監事	有本 耕平	弁護士
〃	小川 洋一	公認会計士・税理士

# III 組織

## 1 組織図

平成31年4月1日現在



## 2 職種別・組織別職員数

平成31年4月1日現在

	事務職	医師	保健師・ 看護師・ 准看護師	放射線 技師	臨床 検査技師	理学 療法士	環境 検査技師	薬剤師	栄養士・ 調理員	介護職	運動 指導員等	食鳥 検査員	合 計
総務部	16												16
保健部	42	4	27	14	20	2							109
環境部 精度管理室	15				1		61						77
食鳥検査 センター	1						1					14	16
附属病院	12	5	44	1	1	2		2	11	12			90
健康づく り推進部	14	4	9	6	4				2		5		44
合 計	100	13	80	21	26	4	62	2	13	12	5	14	352

# IV 事業報告

## 1 保健部

### (1) 住民健診

#### 1. 特定健診・後期高齢者健診

##### 1) 健診概要

目的：生活習慣病の予防

対象：特定健診：医療保険加入者で、実施年度中に40～75歳になる者

後期高齢者健診：76歳以上の者

補足)・対象年齢の誕生日以前等での振り分けは各市町によって異なる。

・医療保険加入者：国保加入者及び、被用者保険の被扶養者を対象として集計している。

##### 2) 実施状況

12市町から委託を受け、16,235人の健診を実施し、前年度に比べ1,371人(7.8%)の減少であった。

##### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分		H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
特定健診	国保	12,346	11,552	10,943	8,979	8,760
	他健保	1,595	4,502	5,446	4,683	3,559
	その他	2,309	346	351	336	310
後期高齢者健診		3,616	3,483	3,740	3,608	3,606
計		19,866	19,883	20,480	17,606	16,235

##### ② メタボリックシンドローム判定内訳 (国保、他健保)

(人)

区分	性別	受診者数	メタボリックシンドローム判定結果内訳					
			該当		予備群		非該当	
国保	男性	3,737	851	22.8 %	675	18.1 %	2,211	59.2 %
	女性	4,973	348	7.0 %	292	5.9 %	4,333	87.1 %
他健保	男性	191	41	21.5 %	37	19.4 %	113	59.2 %
	女性	3,418	167	4.9 %	147	4.3 %	3,104	90.8 %
合計	男性	3,928	892	22.7 %	712	18.1 %	2,324	59.2 %
	女性	8,391	515	6.1 %	439	5.2 %	7,437	88.6 %
	計	12,319	1,407	11.4 %	1,151	9.3 %	9,761	79.2 %

### 3) 健診方法

#### ① 健診項目

##### ・基本的な健診の項目

###### 問診

身体計測 (身長、体重、腹囲、BMI。後期高齢者健診は腹囲なし)

理学的所見 (身体診察)

血圧 (収縮期血圧、拡張期血圧)

血中脂質検査 (中性脂肪、HDL-コレステロール、LDL-コレステロール)

肝機能検査 (AST、ALT、 $\gamma$ -GT)

血糖検査 (空腹時血糖、ヘモグロビンA1c、いずれかの項目の実施で可)

尿検査 (尿糖、尿蛋白)

##### ・詳細な健診の項目 (医師の判断による追加項目)

貧血検査 (赤血球数、血色素量、ヘマトクリット値)

心電図検査

眼底検査

#### ② メタボリックシンドロームの判定基準

##### ・必須条件

腹囲： 男性 85 cm以上、女性 90 cm以上

##### ・以下のうち2つ以上が該当

血糖： 空腹時血糖 110 mg/dl 以上、随時の場合は HbA1c 6.0%以上

脂質： 中性脂肪 150 mg/dl 以上、または HDL-コレステロール 40 mg/dl 未満

血圧： 収縮期 130 mmHg 以上、または 拡張期 85 mmHg 以上

※ 脂質・血圧は、いずれかまたは両方

## 2. 肝炎ウイルス検査

### 1) 検査概要

目的： B型・C型肝炎から肝硬変・肝がん等に悪化するのを予防するため  
(B型・C型肝炎の早期発見、早期治療)

対象： 当年度40歳になる者(節目検診)又は過去に受診したことがない者

### 2) 実施状況

12市町から委託を受け実施した。

B型肝炎検査は、1,178人の健診を実施し、前年度に比べ18人(1.6%)の増加であった。

C型肝炎検査は、1,178人の健診を実施し、前年度に比べ21人(1.8%)の増加であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
肝炎ウイルス検査	B型肝炎検査	2,568	1,430	1,470	1,160	1,178
	C型肝炎検査	2,570	1,431	1,471	1,157	1,178

#### ② 陽性率

B型肝炎検査： 陽性者数は5人で、陽性率は0.42%であった。

C型肝炎検査： 感染者数は2人で、感染率は0.17%であった。

### 3) 検査方法

B型肝炎検査： HBs抗原検査(定性)

C型肝炎検査： 問診、HCV抗体検査(CLEIA法)、HCVコア蛋白測定によるHCV抗原検査、HCV-RNA定量検査

## (2) 保健指導

### 1) 指導概要

目的：対象者が自らの健康状態を自覚し、生活習慣の改善のための自主的な取り組みを継続的に行うことができるよう支援する

対象：健康診断の結果、健康の保持に努める必要がある者  
ただし、特定保健指導については医療保険者により、動機づけ支援または積極的支援に階層化された者

### 2) 実施状況

地域では434人の保健指導を実施し、前年度に比べ186人(75.0%)の増加であった。  
職域では1,479人の保健指導を実施し、前年度に比べ181人(10.9%)の減少であった。  
全体では前年度に比べ5人(0.2%)の増加であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
地域	265	263	214	248	434
職域	1,502	1,285	1,403	1,660	1,479
計	1,767	1,548	1,617	1,908	1,913

#### ② 年齢階層別実施状況

(人)

積極的支援		40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	計
地域	男性	2	2	9	0	13
	女性	21	25	18	0	64
職域	男性	345	257	33	0	635
	女性	51	64	9	0	124
計		419	348	69	0	836
動機付け支援		40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	計
地域	男性	5	3	75	58	141
	女性	9	12	102	93	216
職域	男性	115	106	46	15	282
	女性	231	168	34	5	438
計		360	289	257	171	1,077
その他保健指導		39歳以下	40～49歳	50～59歳	60歳～	計
職域	男性	68	0	0	0	68
	女性	48	3	0	1	52
計		116	3	0	1	120

### 3) 指導方法

期間：6ヵ月間

支援：面接…個別または8人以下のグループ

通信…手紙、メール、電話

### (3) 一般健康診断

#### 1) 健診概要

目的： 事業所就業者の健康管理と疾病の早期発見

対象： 事業所就業者

#### 2) 実施状況

94,530 人の健診を実施し、前年度に比べ 21 人 (0.02%) の増加であった。

##### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
実施人員	84,823	91,803	92,157	94,509	94,530

#### 3) 健診方法

##### ① 健診項目

労働安全衛生法で定める検査項目を基本としている。

##### ② 健診区分

区分	時期	項目	備考
雇入れ時	雇入れ時	① 既往、業務歴の調査 ② 自覚症状	労働者の採用時に実施
一般	1年以内に1回	③ 身長、体重、BMI 腹囲、視力、聴力 ④ 胸部X線、喀痰 ⑤ 血圧、尿糖、尿蛋白 ⑥ 貧血検査 ⑦ 肝機能検査 ⑧ 血中脂質検査 ⑨ 血糖検査 ⑩ 心電図検査	④を除き特定業務従事者等は 6ヶ月以内に1回

## (4) 特殊健康診断

### 1) 健診概要

目的： 特定の有害業務に従事する就業者を対象とした健康管理

対象： 有害業務従事者

### 2) 実施状況

12,951人の健診を実施し、前年度に比べ2,322人(21.8%)の増加であった。

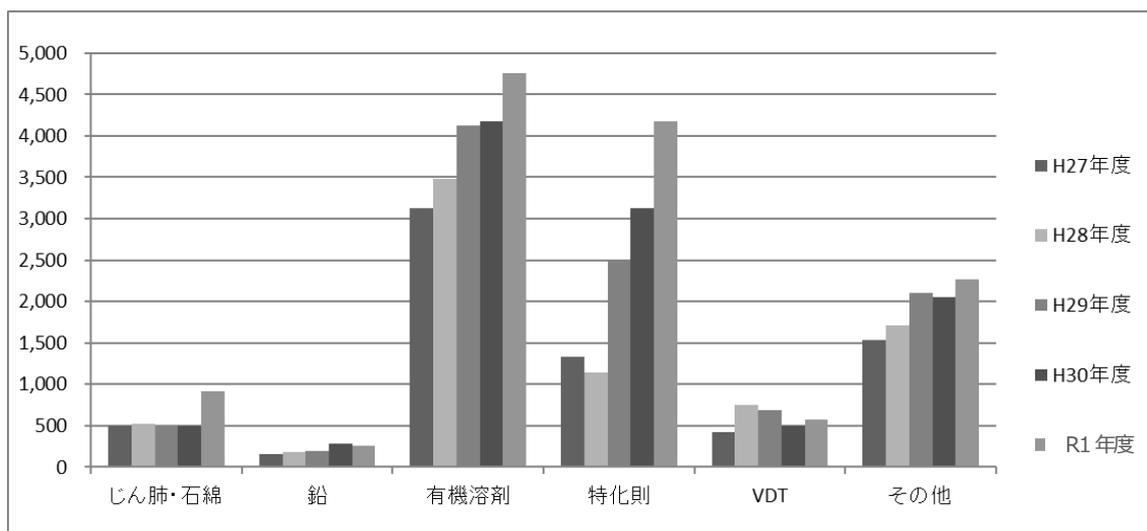
#### ① 項目別実施状況

じん肺・石綿健診は919人、鉛健診は254人、有機溶剤健診は4,754人、特定化学物質健診は4,179人、VDT健診は579人、その他健診は2,266人であった。

#### ② 項目別受診者数の年次推移

(人)

区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
じん肺・石綿	502	525	479	501	919
鉛	158	182	197	277	254
有機溶剤	3,126	3,478	4,127	4,179	4,754
特化則	1,326	1,143	2,490	3,122	4,179
VDT	427	753	684	495	579
その他	1,532	1,713	2,102	2,055	2,266
計	7,071	7,794	10,079	10,629	12,951



### 3) 健診方法

労働安全衛生法及びじん肺法で定める検査項目を基本としている。

## (5) 胸部X線検診（結核検診・肺がん検診）

### 1) 検診概要

目的：「結核」の早期発見、まん延防止及び「肺がん」の早期発見、死亡率低下  
 対象：「結核」は65歳以上の住民、労働安全衛生法による定期健診対象者及び  
 感染症法による対象者、「肺がん」は40歳以上の住民及び事業所就業者

### 2) 実施状況

地域では48,229人の検診を実施し、前年度に比べ1,244人（2.5%）の減少であった。  
 職域では39,281人の検診を実施し、前年度に比べ1,468人（3.6%）の減少であった。  
 各種学校では16,335人の検診を実施し、前年度に比べ2,401人（12.8%）の減少であった。  
 全体では前年度に比べ5,113人（4.7%）の減少であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
地域	66,656	62,482	58,966	49,473	48,229
職域	46,977	41,560	39,712	40,749	39,281
各種学校	23,006	21,164	20,338	18,736	16,335
計	136,639	125,206	119,016	108,958	103,845

#### ② 年齢階層別実施状況表

別表

#### ③ 要精検率（各種学校の読影のみ除く）

要精検者数は1,925人で、要精検率は1.9%であった。

#### ③ 精検受診率（各種学校除く）

精検受診者数は1,090人で、精検受診率は56.6%であった。

#### ④ がん発見率（各種学校除く）

発見された人数は16人で、発見率は0.02%であった。

区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
がん発見者数	25	27	25	17	16
がん発見率	0.02 %	0.03 %	0.03 %	0.02 %	0.02 %

### 3) 検診方法

#### ① 検診項目

結核検診 : 胸部X線間接撮影 (100mm)

肺がん検診 : 問診、胸部X線写真読影 (100mm)、喀痰細胞診 (問診で喫煙指数 600 以上の者または6ヶ月以内に血痰のあった者、いずれかに該当する者)

#### ② 判定方法

胸部疾患専門医師2名による二重読影を行う。  
肺がん検診では読影結果に基づき比較読影を実施する。

#### ③ 判定区分

異常なし : 所見なし (有所見を含む)  
経過観察 : 精密検査は不要だが経過を観察する  
要精検 : 病変の発見及びその疑いがある

別表1 胸部X線検診年齢階層別実施状況（地域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳									
					肺がん	肺がん疑い	悪性腫瘍	肺結核要医療	肺結核要観察	肺結核治療	他呼吸器	循環器	その他	異常なし
男	～39	7	0	0										
	40～44	259	2	2							2			
	45～49	321	2	2							2			
	50～54	303	2	1							1			
	55～59	388	6	3										3
	60～64	803	20	11							6			5
	65～69	2,568	62	50		2					28			20
	70～74	4,471	126	101	5	8		1		1	66			20
	75～79	4,151	148	123	2	7				2	90			22
	80～	4,009	209	165	2	8		2		2	122			29
	不明	0	0	0										
計	17,280	577	458	9	25	0	3	0	5	317	0	0	99	
女	～39	30	0	0										
	40～44	642	4	4						2				2
	45～49	850	12	10						6				4
	50～54	979	10	7						3				4
	55～59	1,515	21	17						11				6
	60～64	2,592	42	35		1				24				10
	65～69	5,285	85	75		1				51				23
	70～74	7,793	179	154	2	5				95				52
	75～79	6,258	164	131	1	3				4	92			31
	80～	5,004	181	149	1	10				1	96			41
	不明	1	0	0										
計	30,949	698	582	4	20	0	0	0	5	380	0	0	173	
合計	48,229	1,275	1,040	13	45	0	3	0	10	697	0	0	272	

別表2 胸部X線検診年齢階層別実施状況（職域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳									
					肺がん	肺がん疑い	悪性腫瘍	肺結核要医療	肺結核要観察	肺結核治療	他呼吸器	循環器	その他	異常なし
男	～39	11,805	61	6							2			4
	40～44	2,049	15	1							1			
	45～49	2,331	40	1										1
	50～54	1,902	37	2										2
	55～59	1,500	30	3	1						1			1
	60～64	1,412	61	3							3			
	65～69	946	45	2	1						1			
	70～74	584	27	3							3			
	75～79	207	22	2							2			
	80～	223	25	1							1			
	不明	18	0	0										
計	22,977	363	24	2	0	0	0	0	0	14	0	0	8	
女	～39	7,269	38	4							1		3	
	40～44	1,566	14	3										3
	45～49	1,864	32	1						1				
	50～54	1,485	27	4							2			2
	55～59	1,321	29	5						1	1			3
	60～64	1,095	30	3							3			
	65～69	587	24	4	1						3			
	70～74	286	11	2							1		1	
	75～79	128	8	0										
	80～	701	73	0										
	不明	2	1	0										
計	16,304	287	26	1	0	0	0	0	2	11	0	4	8	
合計	39,281	650	50	3	0	0	0	0	2	25	0	4	16	

別表3 胸部X線検診年齢階層別実施状況（各種学校）

区分	受診者数	一次検査結果内訳			
		異常なし	経過観察	要精検	撮影のみ
高：1学年	4,993	4,986	0	7	0
高：その他	286	286	0	0	0
養護学校	268	268	0	0	0
その他学校	10,788	10,759	1	28	0
計	16,335	16,299	1	35	0

別表4 喀痰細胞診年齢階層別実施状況（地域）

区分	年齢	受診者数	一次検査結果内訳				
			再検査	異常なし	観察	悪性腫瘍細胞疑い	悪性腫瘍細胞あり
男	～39	0					
	40～44	14		14			
	45～49	11		11			
	50～54	19		19			
	55～59	15		15			
	60～64	69		69			
	65～69	178		178			
	70～74	315		312	3		
	75～79	243	1	241		1	
	80～	206		206			
	不明	0					
計	1,070	1	1,065	3	1	0	
女	～39	0					
	40～44	2		2			
	45～49	6		6			
	50～54	6	1	5			
	55～59	8		8			
	60～64	9		9			
	65～69	20		19	1		
	70～74	38		38			
	75～79	36		34	2		
	80～	30		29		1	
	不明	0					
計	155	1	150	3	1	0	
合計	1,225	2	1,215	6	2	0	

別表5 喀痰細胞診年齢階層別実施状況（職域）

区分	年齢	受診者数	一次検査結果内訳				
			再検査	異常なし	観察	悪性腫瘍細胞疑い	悪性腫瘍細胞あり
男	～39	3		3			
	40～44	1		1			
	45～49	6		6			
	50～54	2		2			
	55～59	5		5			
	60～64	8	1	7			
	65～69	4	1	3			
	70～74	0		0			
	75～79	0		0			
	80～	1		1			
	不明	0					
計	30	2	28	0	0	0	
女	～39	0					
	40～44	2		2			
	45～49	0		0			
	50～54	2		2			
	55～59	4		4			
	60～64	1		1			
	65～69	2		2			
	70～74	0					
	75～79	0					
	80～	0					
	不明	0					
計	11	0	11	0	0	0	
合計	41	2	39	0	0	0	

## (6) 胃がん検診

### 1) 検診概要

目的： 胃がんの早期発見

対象： 原則として 40 歳以上の地域住民及び事業所就業者

### 2) 実施状況

地域では 7,733 人の検診を実施し、前年度に比べ 1,101 人 (12.5%) の減少であった。

職域では 6,084 人の検診を実施し、前年度に比べ 317 人 (5.0%) の減少であった。

全体では前年度に比べ 1,418 人 (9.3%) の減少であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
地域	16,452	13,833	12,376	8,834	7,733
職域	7,415	7,257	6,885	6,401	6,084
計	23,867	21,090	19,261	15,235	13,817

#### ② 年齢階層別実施状況表

別表

#### ③ 要精検率

要精検者数は 1,127 人で、要精検率は 8.2% であった。

#### ④ 精検受診率

精検受診者数は 851 人で、精検受診率は 75.5% であった。

#### ⑤ がん発見率

発見された人数は 17 人で、発見率は 0.12% であった。

内訳は男性 13 人、女性 4 人であった。

区分	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
がん発見者数	30	19	25	13	17
がん発見率	0.13 %	0.09 %	0.13 %	0.09 %	0.12 %

### 3) 検診方法

#### ① 検診項目

問診、胃部X線検査（日本消化器集団検診学会間接8枚撮影法）

#### ② 判定方法

専門医師による二重読影（ダブルチェック）

#### ③ 判定区分

異常なし： 所見なし（放置可を含む）

経過観察： 精密検査は不要だが経過を観察する

要精検： 疑わしい所見がみられるため精密検査の必要がある

別表1 胃がん検診年齢階層別実施状況（地域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳												
					異常なし	胃がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	胃潰瘍	胃ポリープ	陳旧性胃潰瘍	慢性胃炎	十二指腸潰瘍	陳旧性十二指腸潰瘍	その他疾病	不明	
男	～39	2															
	40～44	111	10	9	3	1				2		2					1
	45～49	129	17	12	1				1	1	1	6			1		1
	50～54	113	12	8	3				1			3					1
	55～59	139	16	13	1				2	1	1	7					1
	60～64	273	40	33	5				2	5	3	11					7
	65～69	692	99	70	7	1				6	5	43					8
	70～74	913	113	95	7	3			1	14	10	53					7
	75～79	612	74	51	5	4			1	8	4	20			2		7
	80～	567	71	59	6	3				3	9	4	30				4
計	3,551	452	350	38	12	0	0	0	11	46	28	175	0	3		37	0
女	～39																
	40～44	169	13	10	1					4	1	3					1
	45～49	181	18	14	1					3	1	4			1		4
	50～54	229	8	8	1					2		5					
	55～59	256	21	20	4					4	1	10					1
	60～64	480	45	40	4	1				7		24					4
	65～69	806	75	63	3					20	2	30			1		7
	70～74	936	88	73	3				1	10	5	47					7
	75～79	627	60	51	3	1				16	4	23					4
	80～	498	46	41	2	2					13	2	18				4
計	4,182	374	320	22	4	0	0	0	1	79	16	164	0	2		32	0
合計	7,733	826	670	60	16	0	0	0	12	125	44	339	0	5		69	0

別表2 胃がん検診年齢階層別実施状況（職域）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳												
					異常なし	胃がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	胃潰瘍	胃ポリープ	陳旧性胃潰瘍	慢性胃炎	十二指腸潰瘍	陳旧性十二指腸潰瘍	その他疾病	不明	
男	～39	819	36	24	8						3	2	11				
	40～44	688	18	11	3						1		5				2
	45～49	892	42	29	6	1					2	1	16				3
	50～54	681	41	22	4						3		13				2
	55～59	534	41	22	2						6		9			2	3
	60～64	442	39	21	1				1	2	3	14					
	65～69	209	21	14	1				1	1		9					2
	70～74	65	10	5	1							1	3				
	75～79	9	2	1									1				
	80～	4															
不明																	
計	4,343	250	149	26	1	0	0	0	2	18	7	81	0	2		12	0
女	～39	258	6	5									5				
	40～44	304	13	9	2						1	1	3	1			1
	45～49	367	6	2							1		1				
	50～54	289	8	6	1						1		3				1
	55～59	227	7	4							2		2				
	60～64	181	6	2	1				1								
	65～69	89	4	4	1						1		2				
	70～74	24	1														
	75～79	2															
	80～																
不明																	
計	1,741	51	32	5	0	0	0	0	1	6	1	16	1	0		2	0
合計	6,084	301	181	31	1	0	0	0	3	24	8	97	1	2		14	0

別表3 胃がん検診年齢階層別実施状況（合計）

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳												
					異常なし	胃がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	胃潰瘍	胃ポリープ	陳旧性胃潰瘍	慢性胃炎	十二指腸潰瘍	陳旧性十二指腸潰瘍	その他疾病	不明	
男	～39	821	36	24	8	0	0	0	0	3	2	11	0	0	0	0	0
	40～44	799	28	20	6	1	0	0	0	3	0	7	0	0	3	0	0
	45～49	1,021	59	41	7	1	0	0	1	3	2	22	0	1	4	0	0
	50～54	794	53	30	7	0	0	0	1	3	0	16	0	0	3	0	0
	55～59	673	57	35	3	0	0	0	2	7	1	16	0	2	4	0	0
	60～64	715	79	54	6	0	0	0	3	7	6	25	0	0	7	0	0
	65～69	901	120	84	8	1	0	0	1	7	5	52	0	0	10	0	0
	70～74	978	123	100	8	3	0	0	1	14	11	56	0	0	7	0	0
	75～79	621	76	52	5	4	0	0	1	8	4	21	0	2	7	0	0
	80～	571	71	59	6	3	0	0	3	9	4	30	0	0	4	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	7,894	702	499	64	13	0	0	13	64	35	256	0	5	49	0	0	
女	～39	258	6	5	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	
	40～44	473	26	19	3	0	0	0	0	5	2	6	1	0	2	0	
	45～49	548	24	16	1	0	0	0	0	4	1	5	0	1	4	0	
	50～54	518	16	14	2	0	0	0	0	3	0	8	0	0	1	0	
	55～59	483	28	24	4	0	0	0	0	6	1	12	0	0	1	0	
	60～64	661	51	42	5	1	0	0	1	7	0	24	0	0	4	0	
	65～69	895	79	67	4	0	0	0	0	21	2	32	0	1	7	0	
	70～74	960	89	73	3	0	0	0	1	10	5	47	0	0	7	0	
	75～79	629	60	51	3	1	0	0	0	16	4	23	0	0	4	0	
	80～	498	46	41	2	2	0	0	0	13	2	18	0	0	4	0	
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
計	5,923	425	352	27	4	0	0	2	85	17	180	1	2	34	0		
合計	13,817	1,127	851	91	17	0	0	15	149	52	436	1	7	83	0		

## (7) 子宮がん検診

### 1) 検診概要

目的： 子宮頸がんの早期発見

対象： 原則として20歳以上の女性で地域住民及び事業所就業者

### 2) 実施状況

地域では19,399人の検診を実施し、前年度に比べ189人(1.0%)の減少であった。

職域では380人の検診を実施し、前年度に比べ4人(1.1%)の増加であった。

全体では前年度に比べ185人(0.9%)の減少であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
地域	24,951	24,264	22,796	19,588	19,399
職域	1,385	573	418	376	380
計	26,336	24,837	23,214	19,964	19,779

#### ② 年齢階層別実施状況表

別表

#### ③ 要精検率

要精検者数は137人で、要精検率は0.7%であった。

#### ④ 精検受診率

精検受診者数は95人で、精検受診率は69.3%であった。

#### ⑤ がん発見率

発見された人数は4人で、発見率は0.02%であった。

区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
がん発見者数	3	2	7	1	4
がん発見率	0.01%	0.01%	0.03%	0.01%	0.02%

### 3) 検診方法

#### ① 検診項目

問診（既往歴、家族歴等）、医師による視診・内診及び子宮頸部の細胞採取

#### ② 判定方法

細胞診の判定は日本臨床細胞学会認定の細胞検査士がスクリーニングして、ASC-US 以上のものについて細胞診専門医が判定を行う。

#### ③ 判定区分

細胞診判定	結果	推定される 病理診断	従来クラス分類
NILM	陰性	非腫瘍性所見 炎症	I、II
ASC-US	意義不明な 異型扁平上皮細胞	軽度扁平上皮内病変疑い	II-IIIa
ASC-H	HSILを除外できない 異型扁平上皮細胞	高度扁平上皮内病変疑い	IIIa、IIIb
LSIL	軽度扁平 上皮内病変	HPV感染 軽度異形成	IIIa
HSIL	高度扁平上皮内病変	中等度異形成	IIIa
		高度異形成	IIIb
		上皮内癌	IV
SCC	扁平上皮癌	扁平上皮癌	V
AGC	異型腺細胞	腺異型または 腺癌疑い	III
AIS	上皮内腺癌	上皮内腺癌	IV
Adenoca.	腺癌	腺癌	V
other malign.	その他の悪性腫瘍	その他の悪性腫瘍	V

別表1 子宮頸がん検診年齢階層別実施状況（地域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳			
				異常なし	頸部がん	がん疑い	その他疾病
～19							
20～24	160	6					
25～29	239	9	4	2			2
30～34	635	11	8	1			5
35～39	837	19	14	4			10
40～44	1,423	23	17	6	2		9
45～49	1,491	15	12	3			8
50～54	1,253	10	8	4			2
55～59	1,457	7	6	1			5
60～64	2,062	8	7		1		4
65～69	3,055	9	8	3			1
70～74	3,621	11	8	2	1		5
75～79	2,124	4	3	2			1
80～	1,042						
計	19,399	132	95	28	4	0	52

別表2 子宮頸がん検診年齢階層別実施状況（職域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳			
				異常なし	頸部がん	がん疑い	その他疾病
～19	4						
20～24	14						
25～29	29						
30～34	27						
35～39	32						
40～44	36						
45～49	59	3					
50～54	72	1					
55～59	69	1					
60～64	30						
65～69	5						
70～74	3						
75～79							
80～							
計	380	5	0	0	0	0	0

別表3 子宮頸がん検診年齢階層別実施状況（合計）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳			
				異常なし	頸部がん	がん疑い	その他疾病
～19	4	0	0	0	0	0	0
20～24	174	6	0	0	0	0	0
25～29	268	9	4	2	0	0	2
30～34	662	11	8	1	0	0	5
35～39	869	19	14	4	0	0	10
40～44	1,459	23	17	6	2	0	9
45～49	1,550	18	12	3	0	0	8
50～54	1,325	11	8	4	0	0	2
55～59	1,526	8	6	1	0	0	5
60～64	2,092	8	7	0	1	0	4
65～69	3,060	9	8	3	0	0	1
70～74	3,624	11	8	2	1	0	5
75～79	2,124	4	3	2	0	0	1
80～	1,042	0	0	0	0	0	0
計	19,779	137	95	28	4	0	52

## (8) 乳がん検診

### 1) 検診概要

目的：乳がんの早期発見

対象：岡山県の指針で30歳代は視触診単独検診を毎年実施、40歳以上はマンモグラフィ併用検診を毎年実施

原則、地域住民及び事業所就業者

### 2) 実施状況

地域では17,047人の検診を実施し、前年度に比べ124人(0.7%)の減少であった。  
職域では394人の検診を実施し、前年度に比べ85人(17.7%)の減少であった。  
全体では前年度に比べ209人(1.2%)の減少であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
地域	17,178	18,407	19,055	17,624	17,171	17,047
職域	1,092	1,174	907	703	479	394
計	18,270	19,581	19,962	18,327	17,650	17,441

#### ② 年齢階層別実施状況表

別表

#### ③ 要精検率

要精検者数は481人で、要精検率は2.8%であった。

#### ④ 精検受診率

精検受診者数は370人で、精検受診率は76.9%であった。

#### ⑤ がん発見率

発見された人数は30人で、発見率は0.17%であった。

区分	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
がん発見者数	24	34	30	41	30	30
がん発見率	0.13%	0.17%	0.15%	0.22%	0.17%	0.17%

### 3) 検診方法

#### ① 検診項目

- ・問診、視触診（専門医師による立位・座位・仰臥位・視触診法により行う）
- ・問診、視触診、マンモグラフィ（40歳代のみ、内外斜位一方向と頭尾方向を加えた2方向）

#### ② 判定方法

視触診 : 専門医師による

マンモグラフィ : マンモグラフィ精度管理中央委員会の認定読影医師による二重読影

#### ③ 判定区分

##### ・視触診

異常なし : 今回の検診で異常は認められない者

経過観察 : 精密検査は不要だが経過を観察する

要精検 : 今回の検診で精密検査の必要があると診断された者

##### ・マンモ併用

異常なし : 今回の検診で異常は認められない者（有所見を含む）

要精検 : 疑わしい所見が見られるので精密検査が必要と診断された者

別表1 乳がん年齢階層別実施状況（地域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳						
				異常なし	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他	不明
～29	3									
30～34	13									
35～39	16	1								
40～44	1,422	64	57	23	1		12	13	8	
45～49	1,530	64	51	12	2	2	15	8	12	
50～54	1,311	47	36	13	1		12	5	5	
55～59	1,434	35	30	15	1	1	4	0	9	
60～64	2,000	44	32	15	4	1	5	3	4	
65～69	2,841	58	42	15	5	3	4	2	13	
70～74	3,380	88	63	27	9		9	9	9	
75～79	2,041	40	31	14	1		6	1	9	
80～	1,056	29	19	5	4		6	2	2	
不明										
計	17,047	470	361	139	28	7	73	43	71	0

別表2 乳がん年齢階層別実施状況（職域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳						
				異常なし	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他	不明
～29	29									
30～34	4	1	1						1	
35～39	25									
40～44	42	2	2						2	
45～49	75	1	1	1						
50～54	73	4	3						3	
55～59	65	1	1		1					
60～64	38	2	1		1					
65～69	16									
70～74	19									
75～79	6									
80～	2									
不明										
計	394	11	9	1	2	0	0	0	6	0

別表3 乳がん年齢階層別実施状況（合計）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳						
				異常なし	乳がん	乳がん疑い	乳腺症	線維腺腫	その他	不明
～29	32									
30～34	17									
35～39	41									
40～44	1,464	66	59	23	1		12	13	10	0
45～49	1,605	65	52	13	2		15	8	12	
50～54	1,384	51	39	13	1		12	5	8	
55～59	1,499	36	31	15	2		4	0	9	0
60～64	2,038	46	33	15	5		5	3	4	
65～69	2,857	58	42	15	5		4	2	13	0
70～74	3,399	88	63	27	9		9	9	9	0
75～79	2,047	40	31	14	1		6	1	9	
80～	1,058	29	19	5			6	2	2	
不明										
計	17,441	481	370	140	30	7	73	43	77	0

## (9) 大腸がん検診

### 1) 検診概要

目的： 大腸がんの早期発見

対象： 原則として40歳以上の地域住民及び事業所就業者

### 2) 実施状況

地域では18,101人の検診を実施し、前年度に比べ203人(1.1%)の減少であった。

職域では7,504人の検診を実施し、前年度に比べ119人(1.6%)の増加であった。

全体では前年度に比べ84人(0.3%)の減少であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
地域	22,604	21,294	20,351	18,304	18,101
職域	7,197	6,566	6,783	7,385	7,504
計	29,801	27,860	27,134	25,689	25,605

#### ② 年齢階層別実施状況表

別表

#### ③ 要精検率

要精検者数は1,804人で、要精検率は7.0%であった。

#### ④ 精検受診率

精検受診者数は1,107人で、精検受診率は61.4%であった。

#### ⑤ がん発見率

発見された人数は34人で、0.13%であった。

区分	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
がん発見者数	39	33	23	27	34
がん発見率	0.13 %	0.12 %	0.08 %	0.11 %	0.13 %

### 3) 検診方法

#### ① 検診項目

問診、検査（免疫学的便ヘモグロビン検査、便採取は2日法）

#### ② 判定区分

異常なし：免疫学的便潜血反応検査において2日とも陰性

要精検：免疫学的便潜血反応検査において1日あるいは2日とも陽性

別表1 大腸がん検診年齢階層別実施状況(地域)

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳								
					異常なし	大腸がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	大腸ポリープ	憩室	痔	その他疾病	不明
男	～39	2		2	1				1				
	40～44	195	13	6	3				2	1			
	45～49	207	9	10	1				4	2	2	1	
	50～54	208	5	4		1			2	1			
	55～59	234	15	8					6	1		1	
	60～64	467	31	23	3				13	1	6		
	65～69	1,221	102	79	6	4		1	48	11	8	1	
	70～74	1,691	160	119	9	3		1	87	7	10	2	
	75～79	1,276	118	90	12	2			51	9	14	1	1
	80～	1,361	169	100	17	4			56	15	4	4	
計	6,862	622	441	52	14	0	2	270	48	44	10	1	
女	～39	3		1		1							
	40～44	471	26	16	5				5		5	1	
	45～49	562	32	17	10				3	1	3		
	50～54	544	25	17	7	1			2	2	2	3	
	55～59	694	24	20	7				10	2	1		
	60～64	1,157	74	53	15				21	5	9	3	
	65～69	2,067	133	123	22	3			56	17	21	4	
	70～74	2,371	152	116	27	5			49	17	13	5	
	75～79	1,757	116	86	20	1			42	15	6	2	
	80～	1,613	145	90	16	1	1		54	5	9	4	
計	11,239	727	539	129	12	1	0	242	64	69	22	0	
合計	18,101	1,349	980	181	26	1	2	512	112	113	32	1	

別表2 大腸がん検診年齢階層別実施状況(職域)

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳								
					異常なし	大腸がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	大腸ポリープ	憩室	痔	その他疾病	不明
男	～39	926	45	13	6				1	3	3		
	40～44	777	44	7					4		2		
	45～49	949	52	14	3	1			10				
	50～54	722	33	8	2				3	1	1	1	
	55～59	590	51	12	1				7	1	2	1	
	60～64	474	37	15	2				10	3			
	65～69	238	15	5	2				3				
	70～74	92	11	4	1	1			2				
	75～79	42	6	5	2				1	1	1		
	80～	11	3										
不明													
計	4,821	297	83	20	2	0	0	41	9	9	2	0	
女	～39	445	24	4	3							1	
	40～44	385	15										
	45～49	508	32	9	2				5	1		1	
	50～54	361	25	6	3	1			2				
	55～59	321	12	2	1					1			
	60～64	362	25	12	2	1			6	1	1	1	
	65～69	153	11	5	1				4				
	70～74	100	9	5		3			1	1			
	75～79	31	1										
	80～	17	4	1		1							
不明													
計	2,683	158	44	12	6	0	0	18	4	1	3	0	
合計	7,504	455	127	32	8	0	0	59	13	10	5	0	

別表3 大腸がん検診年齢階層別実施状況(合計)

区分	年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳								
					異常なし	大腸がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	大腸ポリープ	憩室	痔	その他疾病	不明
男	～39	928	45	15	7	0	0	0	2	3	3	0	0
	40～44	972	57	13	4	0	0	0	6	1	2	0	0
	45～49	1,156	61	24	4	1	0	0	14	2	2	1	0
	50～54	930	38	12	2	1	0	0	5	2	1	1	0
	55～59	824	66	20	1	0	0	0	13	2	2	2	0
	60～64	941	68	38	5	0	0	0	23	4	6	0	0
	65～69	1,459	117	84	8	4	0	1	51	11	8	1	0
	70～74	1,783	171	123	10	4	0	1	89	7	10	2	0
	75～79	1,318	124	95	14	2	0	0	52	10	15	1	1
	80～	1,372	172	100	17	4	0	0	56	15	4	4	0
不明	6,862	622	441	52	14	0	2	270	48	44	10	1	
計	11,683	919	524	72	16	0	2	311	57	53	12	1	
女	～39	448	24	5	3	1	0	0	0	0	0	1	0
	40～44	856	41	16	5	0	0	0	5	0	5	1	0
	45～49	1,070	64	26	12	0	0	0	8	2	3	1	0
	50～54	905	50	23	10	2	0	0	4	2	2	3	0
	55～59	1,015	36	22	8	0	0	0	10	3	1	0	0
	60～64	1,519	99	65	17	1	0	0	27	6	10	4	0
	65～69	2,220	144	128	23	3	0	0	60	17	21	4	0
	70～74	2,471	161	121	27	8	0	0	50	18	13	5	0
	75～79	1,788	117	86	20	1	0	0	42	15	6	2	0
	80～	1,630	149	91	16	2	1	0	54	5	9	4	0
不明	11,239	727	539	129	12	1	0	242	64	69	22	0	
計	13,922	885	583	141	18	1	0	260	68	70	25	0	
合計	25,605	1,804	1,107	213	34	1	2	571	125	123	37	1	

## (10) 前立腺がん検診

### 1) 検診概要

目的： 前立腺がんの早期発見

対象： 原則として 40 歳以上の地域住民及び事業所就業者

### 2) 実施状況

地域では 5,040 人の検診を実施し、前年度に比べ 161 人 (3.1%) の減少であった。

職域では 639 人の検診を実施し、前年度に比べ 77 人 (10.8%) の減少であった。

全体では前年度に比べ 238 人 (4.0%) の減少であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
地域	6,516	6,167	6,051	5,201	5,040
職域	514	377	475	716	639
計	7,030	6,544	6,526	5,917	5,679

#### ② 年齢階層別実施状況表

別表

#### ③ 要精検率

要精検者数は 349 人で、要精検率は 6.1%であった。

#### ⑤ 検受診率

精検受診者数は 205 人で、精検受診率は 58.7%であった。

#### ⑥ がん発見率

発見された人数は 17 人で、発見率は 0.30%であった。

区分	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度
がん発見者数	40	29	25	25	17
がん発見率	0.57 %	0.44 %	0.38 %	0.42 %	0.30 %

### 3) 検診方法

#### ① 検診項目： 問診、前立腺特異抗原検査 (CLEIA 法)

② 判定区分：PSAの基準値を4.0ng/mlとし、4.0以下を異常なし、4.1以上を要精検と判定

別表1 前立腺がん検診年齢階層別実施状況（地域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳								
				異常なし	がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	肥大	前立腺炎	その他	不明	
～39												
40～44	61	1	1						1			
45～49	68											
50～54	160	1	1					1				
55～59	194	6	4	1	1			1	1			
60～64	406	16	4			1		3				
65～69	1,048	63	35	11	3	8		12	1			
70～74	1,395	81	48	10	6	6		22	2			2
75～79	953	70	48	11	4	5	1	23	2	1		1
80～	755	89	51	10	2	15		16	2	2		4
計	5,040	327	192	43	16	35	1	78	9	3		7

別表2 前立腺がん検診年齢階層別実施状況（職域）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳								
				異常なし	がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	肥大	前立腺炎	その他	不明	
～39	40											
40～44	64											
45～49	79											
50～54	128	6	4			2		2				
55～59	144	7	5	3		1		1				
60～64	107	1	1					1				
65～69	53	4										
70～74	19	4	3	1	1			1				
75～79	4											
80～	1											
計	639	22	13	4	1	3	0	5	0	0		0

別表3 前立腺がん検診年齢階層別実施状況（合計）

年齢	受診者数	要精検者数	精検受診者数	精検結果内訳								
				異常なし	がん	がん疑い	その他の悪性腫瘍	肥大	前立腺炎	その他	不明	
～39	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
40～44	125	1	1	0	0	0	0	0	1	0		0
45～49	147	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0
50～54	288	7	5	0	0	2	0	3	0	0		0
55～59	338	13	9	4	1	1	0	2	1	0		0
60～64	513	17	5	0	0	1	0	4	0	0		0
65～69	1,101	67	35	11	3	8	0	12	1	0		0
70～74	1,414	85	51	11	7	6	0	23	2	0		2
75～79	957	70	48	11	4	5	1	23	2	1		1
80～	756	89	51	10	2	15	0	16	2	2		4
計	5,679	349	205	47	17	38	1	83	9	3		7

## (1 1) 骨粗鬆症検診

### 1) 検診概要

目的：骨粗鬆症の予防

対象：地域住民、事業所就業者、学生

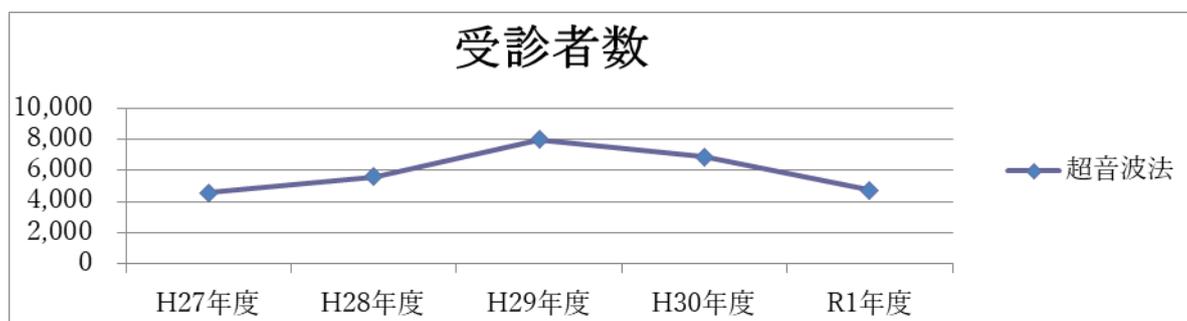
### 2) 実施状況

4,741人の検診を実施し、前年度に比べ2,130人（31.0%）の減少であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
超音波法	4,567	5,613	8,012	6,871	4,741



### 3) 検診方法

#### ① 検診項目

- ・問診
- ・超音波法：足のかかると超音波をあてて、音響的骨評価値により骨密度を測定

#### ② 判定方法

性別、年齢別に下記判定基準値（YAM値）と照合し医師による最終判定を行う

#### 4) 判定基準値（成人）

性別	年齢	YAM値に対する割合		
		① 異常なし	② 要指導	③ 要精検
女性	59歳以下	90%以上	90%未満 80%以上	80%未満
	60歳以上	90%以上	90%未満 70%以上	70%未満
男性	全年齢	90%以上	90%未満 75%以上	75%未満

## (12) 学校保健検査

### 1. 尿検査

#### 1) 検査概要

目的： 腎臓病・糖尿病等早期発見

対象： 学校保健安全法に基づく幼児・児童・生徒等

#### 2) 実施状況

143,684 人の検査を実施し、前年度に比べ7,774 人 (5.1%) の減少であった。

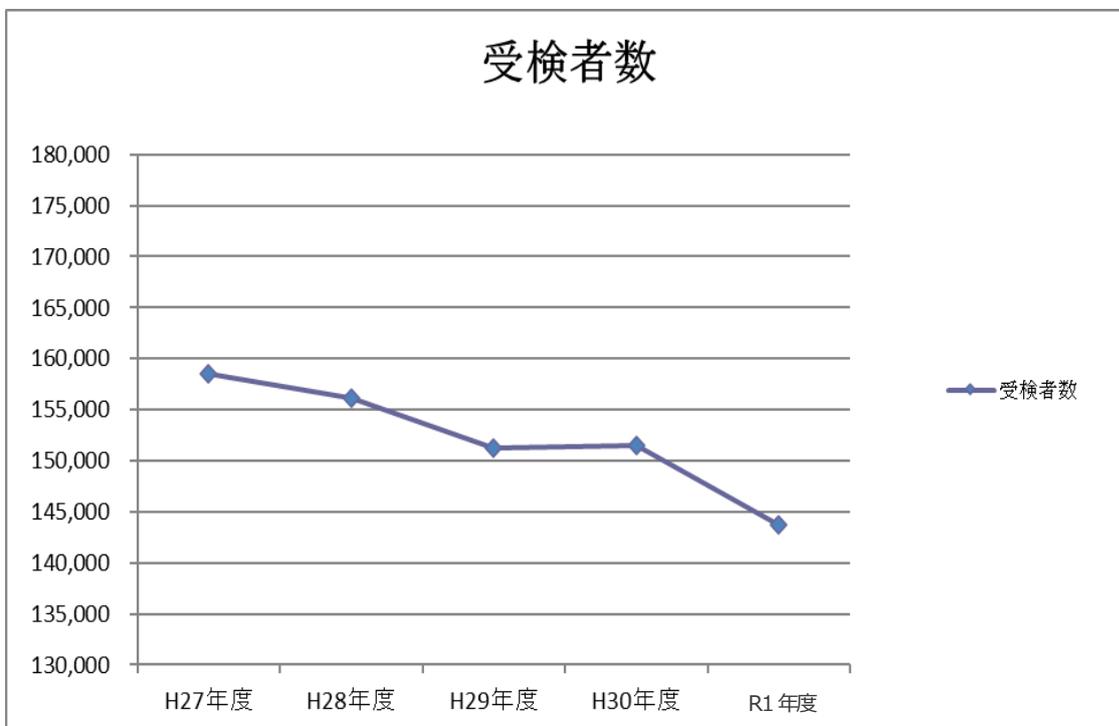
第1回検尿の陽性者は6,299 人で、陽性率は3.2%であった。

第2回検尿の陽性者は1,702 人で、陽性率は28.9%であった。

#### ① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
受検者数	158,571	156,092	151,195	151,458	143,684



## ② 検査実績

対象	性別	第1回検尿						第2回検尿					
		受診者数	陽性者数	陽性率 (%)	項目別陽性者数			受診者数	陽性者数	陽性率 (%)	項目別陽性者数		
					糖	蛋白	潜血				糖	蛋白	潜血
幼稚園 保育園	男	7,424	64	0.86	10	42	12	52	11	21.15	0	9	2
	女	7,054	107	1.52	6	75	26	98	26	26.53	1	15	10
	計	14,478	171	1.18	16	117	38	150	37	24.67	1	24	12
小学校	男	38,654	578	1.50	29	461	88	516	147	28.49	4	98	45
	女	36,974	1,240	3.35	32	893	315	1,108	387	34.93	8	265	114
	計	75,628	1,818	2.40	61	1,354	403	1,624	534	32.88	12	363	159
中学校	男	18,430	1,615	8.76	45	1,512	58	1,422	428	30.10	7	379	42
	女	16,944	1,565	9.24	29	946	590	1,269	411	32.39	4	317	90
	計	35,374	3,180	8.99	74	2,458	648	2,691	839	31.18	11	696	132
高等学校	男	6,603	433	6.56	18	394	21	377	126	33.42	5	105	16
	女	7,022	462	6.58	16	300	146	357	101	28.29	0	86	15
	計	13,625	895	6.57	34	694	167	734	227	30.93	5	191	31
その他 の学校	男	799	25	3.13	5	20	0	20	6	30.00	1	5	0
	女	2,117	55	2.60	5	50	0	39	10	25.64	1	9	0
	計	2,916	80	2.74	10	70	0	59	16	27.12	2	14	0
特殊学校	男	1,111	81	7.29	7	62	12	50	23	46.00	3	17	6
	女	552	74	13.41	5	49	20	32	49	153.13	0	19	4
	計	1,663	155	9.32	12	111	32	82	72	87.80	3	36	10
合計	男	73,021	2,796	3.83	114	2,491	191	2,437	744	30.53	20	613	111
	女	70,663	3,503	4.96	93	2,313	1,097	2,903	958	33.00	14	711	233
	計	143,684	6,299	4.38	207	4,804	1,288	5,340	1,702	31.87	34	1,324	344

## 3) 検査方法

第1回検尿：蛋白、潜血、糖を、尿自動分析装置（US3300）を用いて定性検査を実施する。  
蛋白（±）以上の尿に対しては、スルホサリチル酸法で確認する。

第2回検尿：第1回検尿の陽性者に対し第1回検尿と同様の検査項目・検査方法を行う。  
蛋白・潜血陽性者に対しては沈渣鏡検を行う。

## 2. 寄生虫検査

### 1) 検査概要

目的： 学校保健安全法に基づく寄生虫の保卵者の発見

対象： 幼児、児童、生徒等

### 2) 実施状況

34人の検査を実施し、前年度と比べ1人(3.03%)の増加であった。

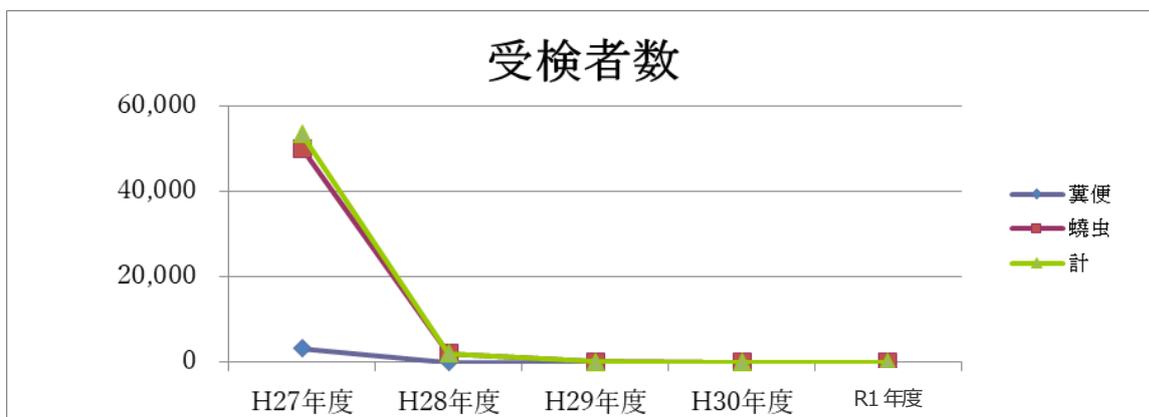
糞便検査の保卵者は0人で、陽性率は0.00%であった。

(注)糞便検査は学校保健安全法の改正が施行され、平成28年に寄生虫検査が必須項目から外れた。

#### ① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
糞便	3,311	33	33	33	34
蟯虫	50,162	2,142	191	0	0
計	53,473	2,175	224	33	34



#### ② 検査実績

区分	糞便			蟯虫		
	検査者数	保卵者数	陽性率(%)	検査者数	保卵者数	陽性率(%)
保育園 幼児クラブ	34	0	0.00	0	0	0.00
幼稚園	0	0	0.00	0	0	0.00
小学校	0	0	0.00	0	0	0.00
特殊学校	0	0	0.00	0	0	0.00
計	34	0	0.00	0	0	0.00

### 3) 検査方法

- セロファンテープ肛囲検査法（2回法）： 蟯虫卵検査方法はセロテープ法を用いた採卵を行う。夜間に肛門周囲に産卵された蟯虫卵を早朝セロテープの粘着部に付着させ、これを2日間（2回）行い、顕微鏡下で虫卵の有無を鏡検する。
- セロファン厚層塗抹法 : 便をマッチの頭程度スライドに乗せ、顕微鏡下で虫卵の有無を鏡検する。

### 3. 貧血検査

#### 1) 検査概要

目的： 貧血をはじめとする血液学的疾病の早期発見

対象： 児童、生徒等

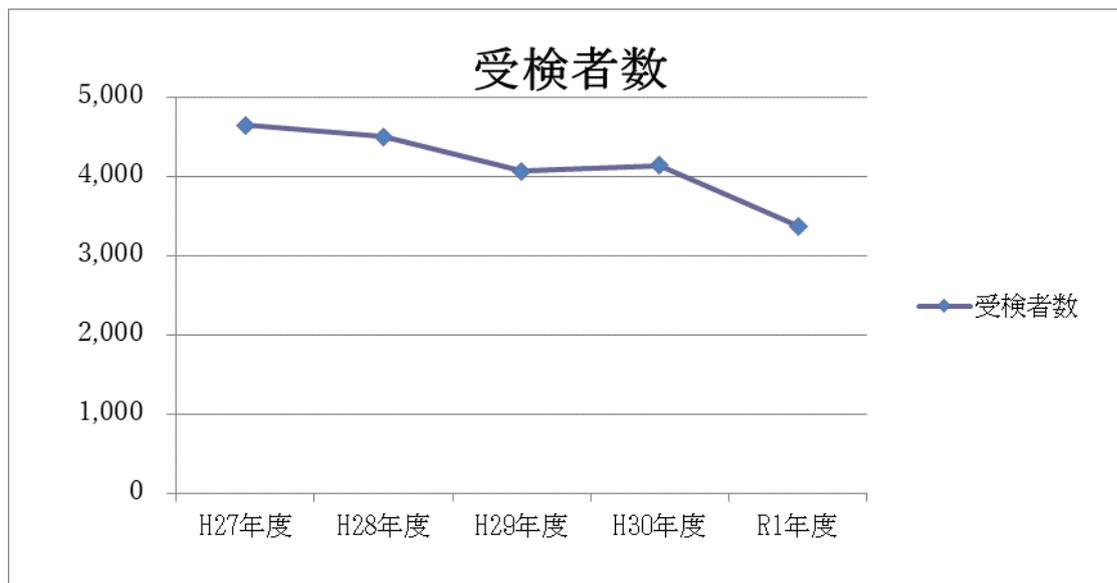
#### 2) 実施状況

3,370人の検査を実施し、前年度に比べ761人（18.4%）の減少であった。

##### ① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
受検者数	4,638	4,494	4,065	4,131	3,370



##### ① 検査実績

区分	性別	RBC (赤血球数)		Hb (ヘモグロビン)		Ht (ヘマトクリット)	
		受診数	基準外	受診数	基準外	受診数	基準外
中学校	男	99	9	99	7	99	5
	女	201	25	201	32	201	21
高校	男	1,137	213	1,137	74	1,137	106
	女	1,933	204	1,933	261	1,933	237
計		3,370	451	3,370	374	3,370	369

#### 3) 検査方法

静脈より採血し、全自動血球計数装置 (XE2100) でRBC (赤血球数)、Hb (ヘモグロビン)、Ht (ヘマトクリット) の値を測定する。

## 4. 心臓検診

### 1) 検診概要

目的： 心疾患児の発見とともに重症度を判定し、突然死等の発生の予防

対象： 学校保健安全法に基づく、小学校1年生、小学校4年生、中学校1年生、  
高等学校1年生及びその他の学年

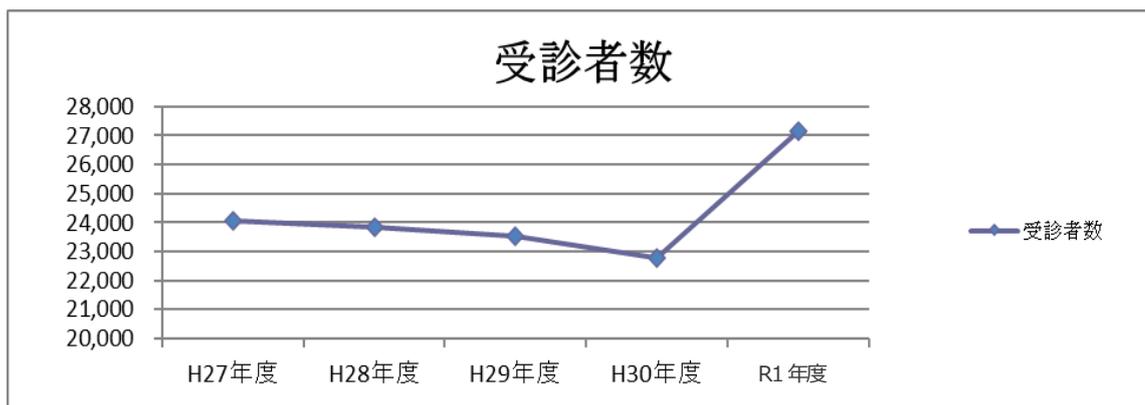
### 2) 実施状況

27,152人の検診を実施し、前年度に比べ4,366人(19.2%)の増加であった。  
有所見率は3.18%であった(医師会審査判読分は除く)。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
受診者数	24,062	23,829	23,513	22,786	27,152



#### ② 検診実績

区分	受診者数	判定		
		正常	有所見	有所見率
小学校	8,812	8,608	204	2.32
中学校	8,464	8,139	325	3.84
高校、大学	5,465	5,304	161	2.95
特殊学校	363	319	44	12.12
計	23,104	22,370	734	3.18

※ 医師会審査判読分(4,048人)を除く

### 3) 検診方法

心臓検診票と省略4誘導心電図+2点心音図を実施。一部の学校では標準12誘導心電図を実施。

県医師会解析センターで自動解析(一次判読)後、一次有所見者と検診票有点者をふるい分けし、市医師会心臓判定委員会、財団専門医師等で二次判読を実施し最終判定を行う。

## 5. 小児生活習慣病予防健診

### 1) 健診概要

目的：生活習慣病及び生活習慣病予備軍の発見

対象：小学校4年生と中学校1年生の生徒（1市のみ実施）

### 2) 実施状況：

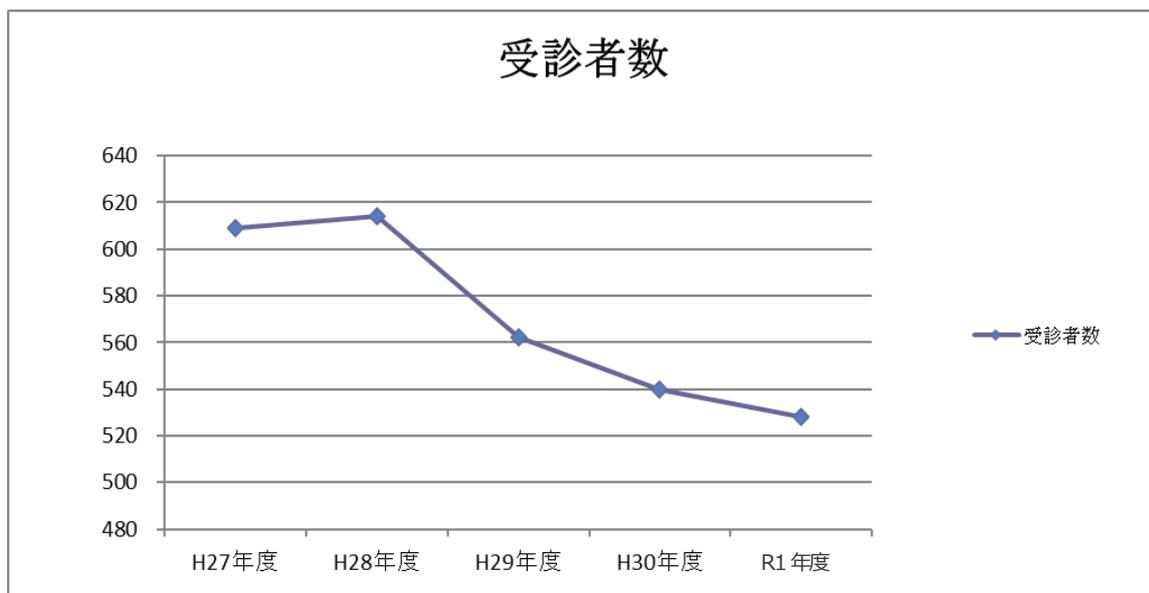
528人の健診を実施し、前年度に比べ12人（2.2%）の減少であった。

また、判定結果で何らかの管理を要する生徒は106人（20.0%）であった。

#### ① 受診者数の年次推移

(人)

区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
受診者数	609	614	562	540	528



#### ② 健診実績

区分			受診者数	管理区分									
				要医学的管理 (Ⅰ)		要経過観察 (Ⅱ)		要指導 (Ⅲ)		管理不要 (Ⅳ)		正常 (N)	
				人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
小学校	4年生	男	162	2	1.2	11	6.8	21	13.0	83	51.2	45	27.8
		女	120	0	0.0	6	5.0	20	16.7	66	55.0	28	23.3
		計	282	2	0.7	17	6.0	41	14.5	149	52.8	73	25.9
中学校	1年生	男	122	2	1.6	2	1.6	14	11.5	74	60.7	30	24.6
		女	124	4	3.2	8	6.5	16	12.9	70	56.5	26	21.0
		計	246	6	2.4	10	4.1	30	12.2	144	58.5	56	22.8
合計	男	284	4	1.4	13	4.6	35	12.3	157	55.3	75	26.4	
	女	244	4	1.6	14	5.7	36	14.8	136	55.7	54	22.1	
	計	528	8	1.5	27	5.1	71	13.4	293	55.5	129	24.4	

### 3) 健診方法

#### ① 健診項目

小児生活習慣病予防健診調査票（家族歴、糖尿病の有無）、身体計測（肥満度の計算）、血中脂質検査、血圧測定

#### ② 判定区分

健診各項目を小児生活習慣病基準値からの乖離度合で判定し、同時にその判定の組合せで5段階の総合判定を行う。

総合判定には専門医師が関与するとともに総合判定のランクに対応して指導（管理）区分を決定する。

管理区分	内容
I	要医学的管理
II	要経過観察
III	要指導
IV	管理不要
N	正常

### (13) 先天性代謝異常等検査

#### 1) 検査概要

目的：先天性代謝異常症等の早期発見

対象：新生児（原則として保護者の検査希望）

#### 2) 実施状況

平成11年度より岡山県からの委託事業として実施しているが、平成18年度より高知県、平成20年度より鳥取県から委託を受け、平成21年度より政令指定都市への移行に伴い、岡山市から委託を受けている。

また、平成24年度からタンデムマス検査が導入され対象疾患は従来の6疾患から19疾患に拡大し、一時的ではあるが埼玉県、愛媛県からの委託を受けた。

平成25年度からは島根県より3項目の委託を受けた。

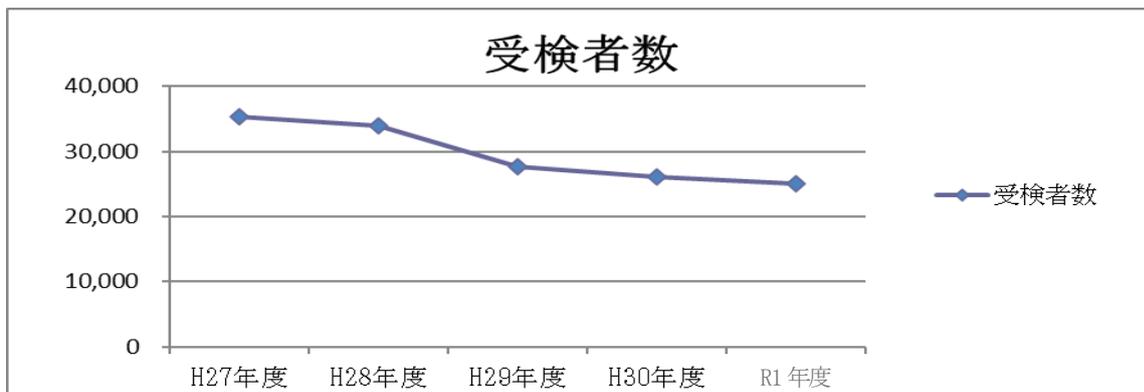
25,106人（初回検体数:24,613人、再採血による再検査数:493人）の検査を実施し、前年度に比べ1,025人（3.9%）の減少であった。

確定患児は23人（0.09%）であった。

#### ① 受検者数の年次推移

(人)

区分	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
受検者数	35,357	33,996	27,652	26,131	25,106



#### ② 検査実績

対象疾患	検査総数	要再検査	要精検	患児件数
先天性甲状腺機能低下症	25,106	337 (1.34%)	47 (0.19%)	20 (0.08%)
先天性副腎過形成症		216 (0.86%)	23 (0.09%)	0 (0.00%)
ガラクトース血症		53 (0.21%)	7 (0.03%)	0 (0.00%)
アミノ酸代謝異常症	24,838	4 (0.02%)	1 (0.00%)	0 (0.00%)
有機酸代謝異常症		37 (0.15%)	4 (0.02%)	2 (0.01%)
脂肪酸代謝異常症		5 (0.02%)	6 (0.02%)	1 (0.00%)
低出生体重児と検体不備の2回採血		493 (1.96%)		

### 3) 検査方法

出生から4～6日目に、新生児の踵から4スポットの血液をろ紙に採血する。  
よく乾燥されたものを検体とする。

ガラクトース血症はマイクロプレート酵素法及びボイトラー法で検査。

先天性甲状腺機能低下症・先天性副腎過形成症はELISA法で検査。

アミノ酸代謝異常症、有機酸代謝異常症、脂肪酸代謝異常症はタンデムマス法で検査する。

## 2 環 境 部

### (1) 飲料水検査

#### 1) 検査概要

目的・・・水道事業、食品製造、飲用井戸、建築物等における安全な飲み水の確認  
 対象・・・自治体、事業所、建築物管理者、貯水槽清掃業者及び個人

#### 2) 実施状況

9,970 件検査を受託し、前年度と比較し 345 件減少した。

##### ① 受託検査数の年次推移

(件)

24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度
11,239	11,307	11,228	10,250	9,861	9,897	10,315	9,970

※集計方法の変更により 29 年度件数を 9,806 件から 9,897 件に変更

##### ② 令和元年度の検査実績

(件)

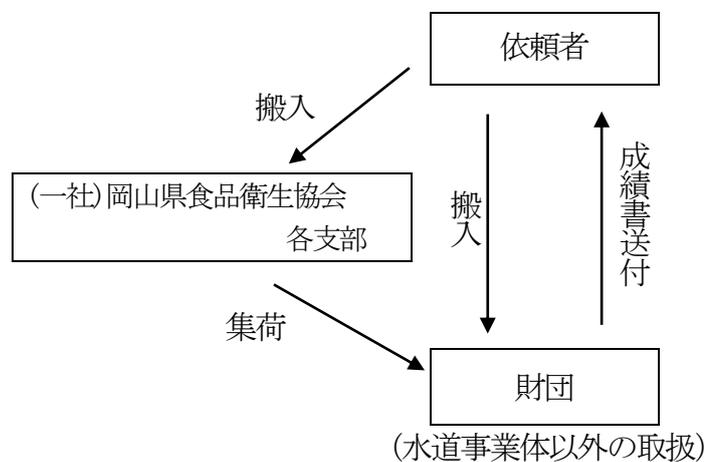
業務分類	検査種別	件数
水道事業	基準項目	575
	省略不可項目	659
	簡易項目	2,110
	水質管理目標設定項目	166
	農薬類	748
	クリプトスポリジウム	573
	クリプトスポリジウム汚染指標菌	1,628
	簡易項目（学校関連）	290
ビル管理関係	16 項目	224
	11 項目	158
	消毒副生項目	192
食品衛生関連	食品製造用水	124
飲用井戸水等	化学・細菌検査	3,535

#### 3) 検査方法

厚生労働省告示第 261 号、上水試験方法、食品衛生法等による試験法で各検査項目を測定する。

#### 4) 検査システム

検体の搬入は、依頼者が直接財団に持参するか、(一社)岡山県食品衛生協会の各支部へ搬入したものを担当者が集荷する。水道事業体については職員が現地訪問により採取し、搬入後、理化学的検査及び生物学的検査を行い、検査成績書を発行する。



#### 5) 登録検査機関

水道法に基づき指定検査機関として認可されていたが、同法の改正により平成16年2月27日から厚生労働大臣が認可する登録検査機関に移行した。

また、ビル管理法に基づく水質検査は昭和47年より登録検査機関となっている。

## (2) 簡易専用水道検査

### 1) 検査概要

目的・・・建築物等における安全な飲み水の確保  
 対象・・・マンション・学校・病院・事務所ビル等

### 2) 実施状況

2,230件を受託し、前年度と比較し24件増加した。

#### ① 受託検査数の年度別推移

(件)

24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度
2,104	2,118	2,125	2,111	2,027	2,175	2,206	2,230

#### ② 令和元年度の検査実績

(件)

簡易専用水道		小規模 貯水槽水道他	総件数
現場検査	書類検査		
1,806	256	168	2,230

#### ③ 令和元年度の不適合率

簡易専用水道	小規模 貯水槽水道	全 体
27.7%	29.8%	27.8%

※不適合率とは「良好」以外と判定された施設の割合

#### ④ 簡易専用水道の不適合率の年度別推移

24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度
43.0%	38.2%	36.4%	33.3%	30.9%	31.3%	28.9%	27.7%

### 3) 検査方法

水道法、施行規則、厚生労働省告示、岡山県、岡山市及び倉敷市簡易専用水道の取扱に係る指導指針

### 4) 検査システム

検査実施については、設置者又は設置者の委託を受けた管理者等からの依頼により検査を行い、結果書を送付する。

### 5) 登録検査機関

水道法第34条2の第2項に基づく指定検査機関として昭和54年10月から検査を行っているが、同法の改正により平成16年3月31日から厚生労働大臣が認可する登録検査機関に移行した。

### (3) 浄化槽法定検査

#### 1) 検査概要

目的・・・事業所・店舗や家庭等の浄化槽放流水による公共用水域の水質の保全  
 対象・・・自治体、浄化槽設置者又は管理者

#### 2) 実施状況

7条検査 789 件、11条検査 49,826 件を合わせて 50,615 件の検査を受託し、前年度と比較し 25 件減少した。

##### ① 法定検査数の年次推移

(件)

24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度
50,591	50,325	50,705	50,489	50,516	50,413	50,640	50,615

##### ② 7条検査数の年次推移

(件)

24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度
1,118	1,062	1,201	1,041	904	852	870	789

##### ③ 11条検査数の年次推移

(件)

24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度
49,473	49,263	49,504	49,448	49,612	49,561	49,770	49,826

##### ④ 令和元年度の検査判定内訳

(件)

判定	7条検査	11条検査		
			みなし 浄化槽	合併処理 浄化槽
適正	621	31,737	8,496	23,241
概ね適正	160	17,304	3,995	13,309
不適正	8	785	482	303
総件数	789	49,826	12,973	36,853

### 3) 検査方法

浄化槽法、施行規則、環境省告示、岡山県及び岡山市要綱

### 4) 検査システム

#### ○7条検査（設置後検査）

浄化槽設置者（又は施工業者）は、浄化槽設置前に設置票、7条検査依頼書に検査料金を添えて岡山県浄化槽施工協同組合の窓口へ提出する。

提出された書類、検査料金は後日検査機関へ送付され、使用開始（保守点検開始）報告により7条検査の実施計画を立てる。

検査料金は、浄化槽の規模にかかわらず1件について8,000円（非課税）と定めている。

#### ○11条検査（年1回定期検査）

浄化槽設置者（管理者）は、保守点検業者、清掃業者及び指定検査機関と一括契約方式により委託契約を結び、検査料金は原則保守点検業者の協力により保守点検料金に含めて徴収され、法定検査実施後に検査機関へ支払われる。

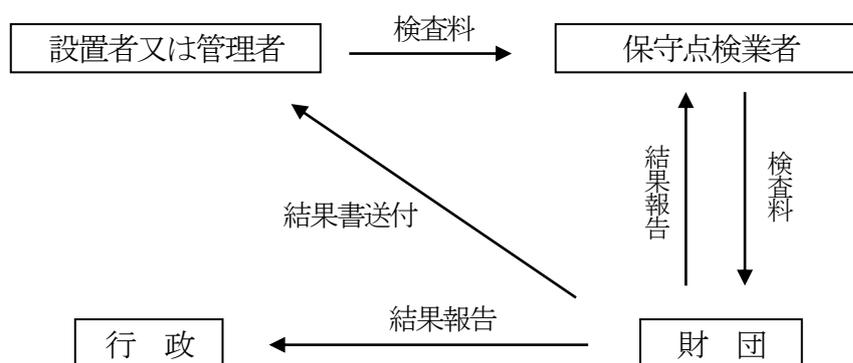
検査料金は、浄化槽の規模にかかわらず1件について5,700円（非課税）と定めている。

#### ○検査について

検査は、外観検査、水質検査、書類検査について行い、設置者（管理者）に検査結果書を送付する。

検査結果で「不適正」と判定された浄化槽並びに未保守浄化槽については、関係行政機関、関係団体に報告し改善指導を要請している。

また、保守点検業者及び施工業者にも改善策を講ずるべく不適正の内容を報告している。



### 5) 指定検査機関

昭和61年4月に浄化槽法第57条の規定に基づく岡山県知事指定浄化槽検査機関として指定を受け検査を開始する。

(4) 岡山県浄化槽水質管理実施要綱に基づく検査

1) 検査概要

目的・・・事業所、店舗、家庭等の浄化槽放流水の水質状況確認、及び浄化槽の  
浄化機能検査

対象・・・浄化槽設置者又は管理者

2) 実施状況

6,177 件検査を受託し、前年度より 105 件減少した。

① 受託検査数の年次推移

(件)

24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度
7,066	6,702	6,694	6,349	6,354	6,411	6,282	6,177

② 検査実績

(件)

R1 年度	機能検査	放流水検査
総検査項目数	601	5,576

③ 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
pH	5,938
BOD	5,417
COD	3,493
SS	3,155
ノルマルヘキサン抽出物質	586
全窒素	2,775
全りん	2,787
塩化物イオン	4,336
透視度	4,336
大腸菌群数	2,108
外観	5,809
臭気	4,242

### 3) 検査方法

衛浄第34条、JIS K 0102 工場排水試験法、環境省告示等による試験方法で検査項目を測定する。

### 4) 検査システム

検査実施については、対象施設の管理者からの依頼により検査を行い、結果書を送付する。

### 5) 指定検査機関

昭和61年4月に浄化槽法第57条の規定に基づく岡山県知事指定浄化槽検査機関として指定を受け検査を開始する。

## (5) 産業排水検査

### 1) 検査概要

目的・・・事業所等による排水の汚染状況確認  
対象・・・自治体、事業所、ホテル、老健施設等

### 2) 実施状況

2,890 件検査を受託し、前年度より 286 件増加した。

#### ① 受託検査数の年次推移

(件)

24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度
2,969	2,251	2,211	2,142	2,634	2,516	2,604	2,890

#### ② 検査実績

(件)

R1 年度	理化学項目検査	微生物項目検査
総検査項目数	14,793	982

③ 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
pH	1,407
BOD	1,628
COD	2,036
SS	1,456
MLSS	40
ノルマルヘキサン抽出物質	1,456
全窒素	1,824
全りん	1,894
塩素イオン	130
カドミウム	132
鉛	167
六価クロム	136
シアン化合物	106
有機リン	78
ヒ素	133
総水銀	111
アルキル水銀	72
PCB	82
六価クロム溶出試験	121
大腸菌群数	979

3) 検査方法

JIS K 0102 工場排水試験法、環境省告示等による試験方法で検査項目を測定する。

4) 検査システム

検査実施については、官公庁及び事業場等の管理者からの依頼により検査を行い、結果書を送付する。

5) 登録検査機関

岡山県知事登録の計量法第107条の計量証明事業所

## (6) 河川水検査

### 1) 検査概要

目的・・・河川、海域及び湖沼等における自然環境の保全と安全な生活環境の確保  
対象・・・自治体、事業所等

### 2) 実施状況

1,060 件検査を受託し、前年度より 4 件減少した。

#### ① 受託検査数の年次推移

(件)

24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度
1,847	1,512	1,567	1,473	1,152	1,041	1,064	1,060

#### ② 検査実績

(件)

R1 年度	理化学項目検査	微生物項目検査
総検査項目数	10,880	1,599

③ 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
pH	1,854
BOD	1,268
COD	1,294
DO	1,835
SS	1,459
ノルマルヘキサン抽出物質	223
全窒素	933
全りん	844
塩素イオン	568
カドミウム	91
鉛	105
六価クロム	78
シアン化合物	82
ヒ素	184
総水銀	88
アルキル水銀	68
PCB	77
農薬（ゴルフ場等）	397
大腸菌群数	1095
大腸菌数	504

3) 検査方法

JIS K 0102 工場排水試験法、環境省告示等による試験方法で検査項目を測定する。

4) 検査システム

検査実施については、官公庁及び事業場等の管理者からの依頼により検査を行い、結果書を送付する。

5) 登録検査機関

岡山県知事登録の計量法第107条の計量証明事業所

## (7) 食品検査

### 1) 検査概要

目的・・・安心・安全な食品の確保、飲食物に起因する衛生上の危害防止  
 対象・・・自治体、食品製造業者、食品販売店及び給食事業所等

### 2) 実施状況

7,272 件検査を受託し、前年度と比較し 896 件減少した。

#### ① 受託検査数の年次推移

(件)

	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度
衛生検査	5,763	5,410	6,414	6,731	6,643	7,800	8,168	7,272
輸入食品 自主検査等	68	57	43	56	32	26	33	24

#### ② 検査実績

(件)

R1 年度	理化学的検査項目	細菌学的検査項目
検査項目数	2,823	14,684

#### ③ 主な項目の検査数

(件)

検査項目	衛生検査	輸入食品自主検査等
栄養成分等検査	2,516	12
添加物等検査	225	23
重金属類の検査	542	
農薬等検査	86	
器具容器包装の検査	129	
異物検査	243	
清涼飲料水・ミネラルウォーター	97	
細菌数	3,730	
大腸菌群	3,238	
サルモネラ	1,469	
黄色ブドウ球菌	2,326	
腸炎ビブリオ	501	
腸管出血性大腸菌	271	
発育しうる微生物	19	7
ノロウイルス	459	

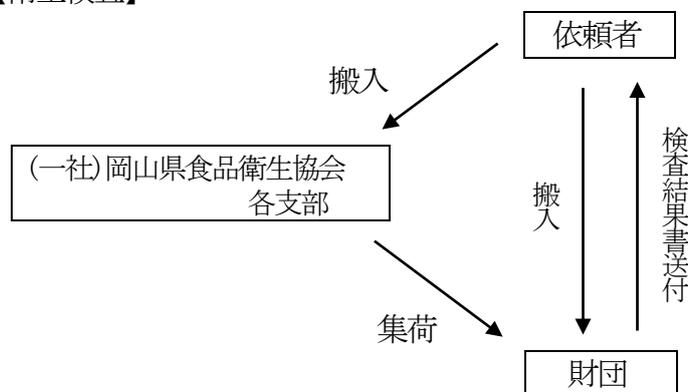
### 3) 検査方法

食品衛生法等に基づく公定法又は公定法に準拠した方法により、国の認可を受けた「検査実施標準作業書」等に基づき行う。

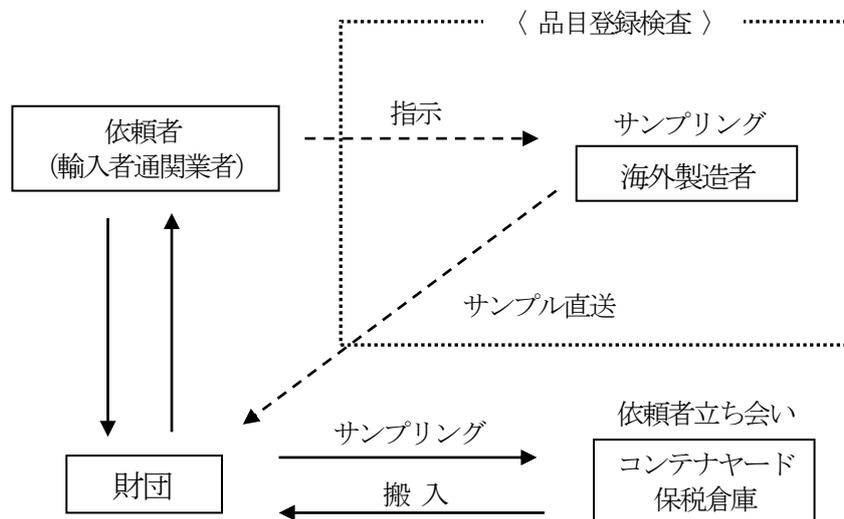
### 4) 検査システム

検査実施については、依頼者が直接財団に持参するか、(一社)岡山県食品衛生協会の各支部へ搬入したものを担当者が集荷する。また、輸入食品等自主検査等は、登録検査員が現場に出向きサンプルを採取し、搬入後、理化学的検査及び細菌学的検査を行い、検査結果書を送付する。

#### 【衛生検査】



#### 【製品検査・輸入食品等自主検査】



### 5) 登録検査機関

食品衛生法に基づき昭和 63 年 3 月 10 日付けで認可されていた「指定検査機関」が同法の改正により平成 16 年 2 月 27 日から厚生労働大臣が認可する「登録検査機関」に移行し、平成 21 年 2 月 27 日付けで厚生労働大臣から登録の更新を受けている。また、平成 21 年 6 月に食品衛生法第 26 条 3 項の追加登録を受け、輸入食品等命令検査の受託を開始した。

## (8) 腸内細菌検査等

### 1) 検査概要

目的・・・腸内細菌に起因する衛生上の危害防止  
対象・・・食品製造業者及び給食事業所等

### 2) 実施状況

11,908 件検査を受託し、前年度より 1,785 件増加した。

#### ① 受託検査数の年次推移

(件)

24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度
10,244	9,033	8,742	8,523	7,934	7,985	10,123	11,908

#### ② 主な項目の検査数

(件)

	検査項目	件数
腸内細菌	赤痢・腸チフス・パラチフス	9,279
	サルモネラ	11,822
	腸炎ビブリオ	145
	腸管出血性大腸菌 (O157、O26 を含む)	9,178
砂場の砂	犬猫回虫卵	86
	砂場の細菌 (E. coli)	41

### 3) 検査方法

食の安全を確保するための微生物協議会の「食品関連従事者の腸管系病原菌保菌者検査マニュアル」に基づき行う。

### 4) 検査システム

検査実施については、依頼者が直接財団に持参するか、(一社)岡山県食品衛生協会の各支部へ搬入したものを担当者が集荷し、搬入後、検査を行い、検査結果書を送付する。

## (9) その他の検査

### 1) 検査概要

目的・・・プール、温泉等の衛生管理の保全とレジオネラ症の発症防止  
対象・・・学校、温泉施設等

### 2) 実施状況

2,478 件検査を受託し、前年度より 152 件増加した。

#### ① 受託検査数の年次推移

(件)

24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R1 年度
1,316	2,403	1,874	2,387	2,217	2,227	2,326	2,478

#### ② 主な項目の検査数

(件)

検査項目	件数
プール水検査（化学・細菌）	222
プール水検査（トリハロメタン）	476
温泉検査	27
室内の化学物質検査	0
浴槽水検査	433
レジオネラ属菌検査	1,225

### 3) 検査方法

「遊泳用プールの検査基準について」及び「学校環境衛生の基準」に示された内容に沿って、定められた項目及び検査方法で検査を実施する。

温泉法、温泉法施行規則、鉱泉分析法指針に則り実施する。

室内空気中化学物質の室内濃度指針値及び標準的測定方法について実施する。

### 4) 検査システム

検査実施については、依頼者が直接財団に持参するか、(一社)岡山県食品衛生協会の各支部へ搬入したものを担当者が集荷し、あるいは職員が現場に出向きサンプルを採取し、搬入後、検査を行い、検査結果書を送付する。

### 5) 登録検査機関

岡山県知事登録温泉分析機関

### 3 精度管理室

#### 1) 環境部における ISO9001 の運用状況

環境部河川水・排水検査部門は、顧客サービスの向上と品質マネジメントシステムの強化を目指す目的から、平成 14 年 10 月に（一財）日本品質保証機構（JQA）から ISO9001 の認証を取得した。

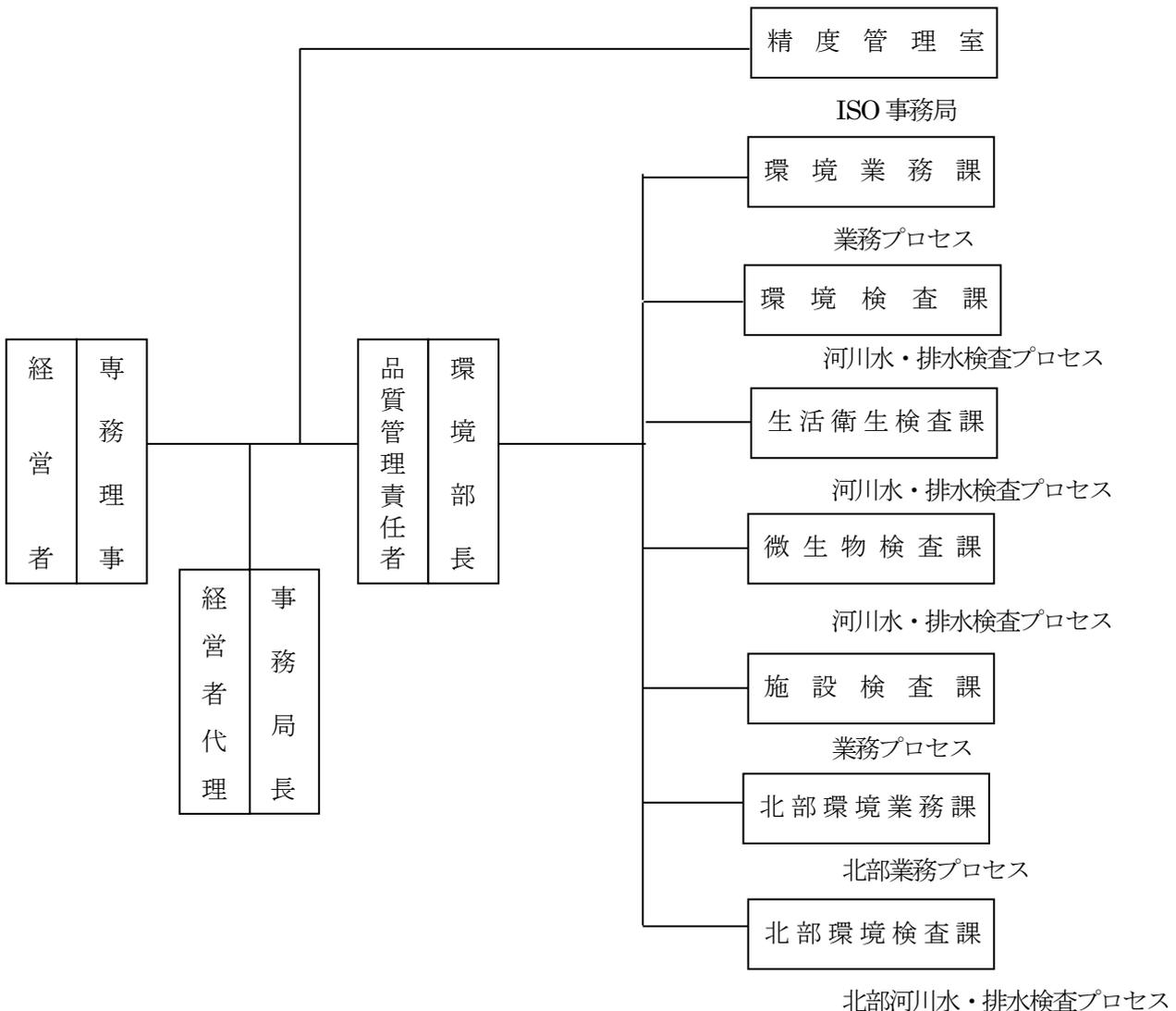
年 1 回の定期審査、3 年毎の更新審査を受け、認証を維持しており、平成 29 年 10 月に ISO9001:2015 へ移行した。

なお、計画的に年 2 回の内部監査を実施し、年度末には経営者によるマネジメントレビューで品質マネジメントシステムの有効性評価を行い、継続的改善に繋げている。

#### 2) ISO 対象組織と責任体制

経営者に専務理事、その代理者を事務局長とし、品質管理責任者（環境部長）を中心に品質管理体制の強化及び品質管理の継続的改善に努めているが、精度管理室はその事務局の役割を担っている。

令和元年度の ISO9001 対象部門の体制



### 3) 水道 GLP 体制の強化及び取り組み状況

環境部飲料水検査部門は、平成 16 年 3 月より水道法第 20 条第 3 項に基づく登録検査機関として登録を受け、平成 21 年 1 月に水質検査機関による水道水水質検査結果の信頼性確保を目的とした（公社）日本水道協会の水道水質検査優良試験所規範（水道 GLP）の認定を取得している。

精度管理室では、検査部門から独立した信頼性確保部門として、水道 GLP 品質管理マニュアルに従い検査が適切に実施されるよう、計画的な内部・外部精度管理調査、内部監査やマネジメントレビューを行うなど検査精度の維持向上に努めている。更に、定期的な点検で、業務が適正に行われているか監視している。

また、毎年厚生労働省が行っている水道水質検査の統一精度管理調査においては、連続して良好な評価を受けている。

### 4) 簡易専用水道 GLP 体制の強化及び取り組み状況

環境部簡易専用水道検査部門は、平成 16 年 3 月より水道法第 34 条の 2 第 2 項に基づく登録検査機関として登録を受けており、検査結果の信頼性を確保するためのシステムとして GLP 体制を整備している。

精度管理室では、その信頼性確保部門として、簡易専用水道業務規定に従い検査が適切に実施されるよう、計画的な内部・外部精度管理調査、内部監査やマネジメントレビューを行うなど、検査精度の維持向上に努めている。

### 5) 食品 GLP 体制の強化及び取り組み状況

環境部食品検査（理化学的検査区分及び細菌学的検査区分）は、平成 16 年 2 月より食品衛生法第 4 条第 1 項に基づく登録検査機関として登録を受け、試験検査結果の信頼性を確保するシステムとして GLP 体制を整備している。

精度管理室では、検査部門から独立した信頼性確保部門として、登録検査機関業務規程に従い検査が適切に実施されるよう、計画的な内部・外部精度管理調査やマネジメントレビューを行うなど、検査精度の維持向上に努めている。更に定期的な内部点検で、業務が適正に行われているか監視している。

また、毎年中国四国厚生局による立入検査がおこなわれ、登録検査機関の業務管理等について監査を受けている。

### 6) HACCP（危害分析重要管理点）導入支援の取り組み状況

食品衛生法改正（平成 30 年 6 月）により、全ての食品等事業者を対象に HACCP による衛生管理が制度化されることとなり、国による食品の安全性のさらなる向上が推し進められている。当財団では、外部講師による研修会の開催や研修参加や（公財）日本食品衛生協会普及指導員登録による資質向上を通じて事業者等の支援を行うなど技術や知見の提供に努めている。

7) 財団の提供するサービスの信頼性の確保・向上を目指し、顧客満足度の向上を図るため、財団全般への ISO9001 の考え方を踏まえた業務改善等の浸透を進めている。

外部講師による研修会等を通じて考え方の浸透やエッセンスの取り入れ等に向けて、情報提供に努めている。

#### 外部機関等による審査

規 格	審 査 機 関	月 日	備 考
ISO9001:2015	(一財)日本品質保証機構	9月18～20日	更新審査
厚生労働大臣登録食品検査機関	中国四国厚生局	7月30日	立入検査

#### 外部講師による研修会

講 師	内 容	月 日	出席者
(一財)日本品質保証機構 企画センター特別参与 仲矢 新 氏	ISO に学ぶ業務改善研修会	2月18日,19日	※103名

※欠席者へ資料・要旨等回覧

## 4 食鳥検査事業

「食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律」に基づき、岡山県知事の指定検査機関として、県内の大規模食鳥処理場 5 施設に、14 名の検査員（獣医師）を派遣し、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）をはじめ各種鶏病等の検査の実施により、検査不合格の食鳥の廃棄措置等を通じ安全な鶏肉流通の確保に努めた。

(単位：千羽)

区分 \ 年度	平成30年度	令和元年度	増減 (%)
食鳥検査羽数	17,572	18,015	102.5

### 1) 検査概要

目的・・・疾病罹患食鳥肉を排除し、食鳥肉に起因する衛生上の危害の発生を防止する。

対象・・・県内の大規模食鳥処理場（年間30万羽を超えて処理する施設）5施設。

（内訳：ブロイラー処理2施設、成鶏処理3施設）

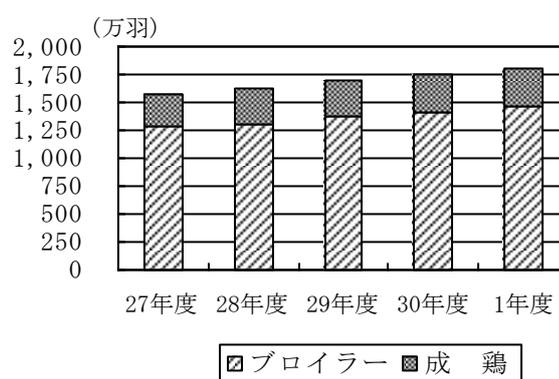
### 2) 実施状況

18,014,748羽の検査を実施した。

内訳はブロイラー14,704,192羽（前年度比 104.8%）、成鶏 3,310,556羽（前年度比 93.5%）であった。

#### ① 検査羽数の推移

年度	ブロイラー	成鶏	合計
27年度	12,795,799	2,926,467	15,722,266
28年度	13,038,166	3,144,599	16,182,765
29年度	13,739,362	3,170,583	16,909,945
30年度	14,031,134	3,540,886	17,572,020
1年度	14,704,192	3,310,556	18,014,748



② 検査成績

(令和元年度)

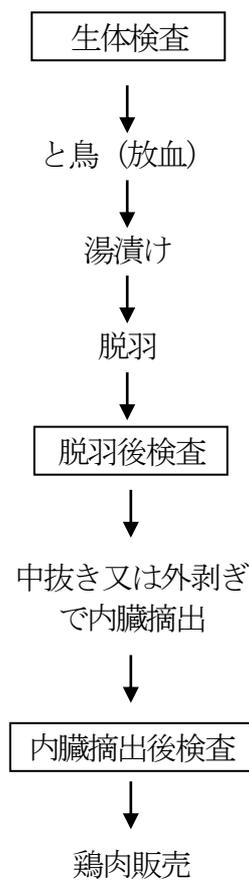
検査項目		廃棄区分			
		禁 止	全部廃棄	一部廃棄	
疾病別羽数	ウイルス・クラミジア類	高病原性鳥インフルエンザ			
		鳥インフルエンザ			
		鶏痘			
		伝染性気管支炎			
		伝染性喉頭気管炎			
		伝染性ファブリキウス嚢病			
		ニューカッスル病			
		鶏白血病			
		封入体肝炎			
		マレック病			
	その他				
	細菌症	鶏マイコプラズマ病			
		大腸菌症	603	19,698	
		伝染性コリーザ			
		サルモネラ病			
		鶏結核病			
		ブドウ球菌症	5	136	
	その他疾病	毒血病		1	
		膿毒症			
		敗血症	15	81	
		豚丹毒菌病			
		ロイコチトゾーン病			
		真菌症			
		原虫症（トキソ除）			
		寄生虫病			
		変性	1,041	8,428	14,793
		尿酸塩沈着症			
		水腫		8	1,351
		腹水症	7,422	29,947	
		出血	22	4,094	34,108
		炎症	277	13,423	451,906
		萎縮			
		腫瘍	3	2,927	3,701
臓器の異常・色形臭等					
異常体温					
黄疸	4	41			
外傷	8	796	13,975		
中毒諸症					
削瘦・発育不良	27,916	12,796			
放血不良	1,197	3,002			
湯漬過度		1,509			
その他	48	22,707			
合 計		38,561	119,594	519,834	
		677,989			

### 3) 検査方法

「食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律」に基づき、検査員（獣医師）が各処理場の従業員である食鳥処理衛生管理者と連携して検査を実施する。

### 4) 検査システム

鶏病の種類・程度等により「と鳥または解体禁止」、「全部廃棄」、「一部廃棄」に分類して処理する。



### 5) 法律上の位置づけ

岡山県知事の指定検査機関である。（平成 29 年度より国から権限移譲）

## 5 附属病院

### 医療の提供

診療科は内科、呼吸器科、胃腸科、循環器科、放射線科、リハビリテーション科で、病床数126床で運営している。

呼吸器疾患の専門性を活かし肺結核、慢性呼吸不全、気管支喘息、肺がんなどの治療に取り組むとともに、気管支鏡検査をはじめとした確定診断や治療法の選択を行い、他の医療機関からの患者紹介に対応している。

また、財団内の人間ドック部門・健康診断部門・健康増進部門との連携により、脳卒中、がん、心臓病、糖尿病などの生活習慣病の早期発見、早期治療に努めるとともに、禁煙指導にも重点を置いており、ニコチン依存から逃れるための禁煙外来や啓発のための講師派遣も行っている。

### (1) 外来状況

#### 1) 概要

内科全般を広く診療し、特に呼吸器疾患に対する専門医の適切な診断・治療に取り組んでいる。

なお、健康診断事業を併設施設へ移行したため、健診受診者は減少となった。

診療時間：平 日 9：00～12：00            13：30～17：00  
土曜日 9：00～12：00（健康診断は行っていない）

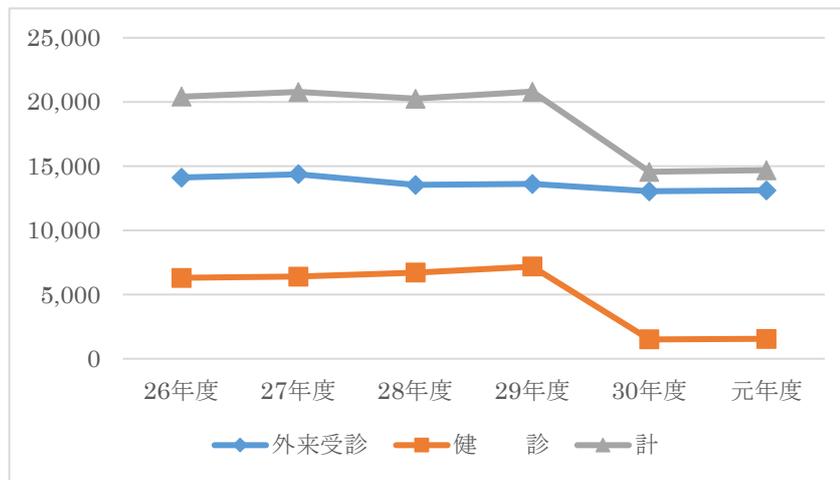
#### 2) 状況

##### ① 年度別外来受診・健診の状況

(人)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
外来受診	14,112	14,366	13,539	13,612	13,045	13,120
健 診	6,304	6,400	6,715	7,189	1,513	1,557
計	20,416	20,766	20,254	20,801	14,558	14,677

## ② 外来患者年度推移



## (2) 入院状況

### 1) 概要

呼吸器疾患の専門性や一般病棟と療養病棟の併設メリットを活かしながら、「信頼される医療の確保」、「心のかよう看護の推進」に取り組んでいる。

機能性と安全性を重視した医療設備により、専門的で人に優しい医療の提供を行っている。

病 棟                      結核46床 (内休止26床)      一般40床    療養40床  
看護体制                      2交代制

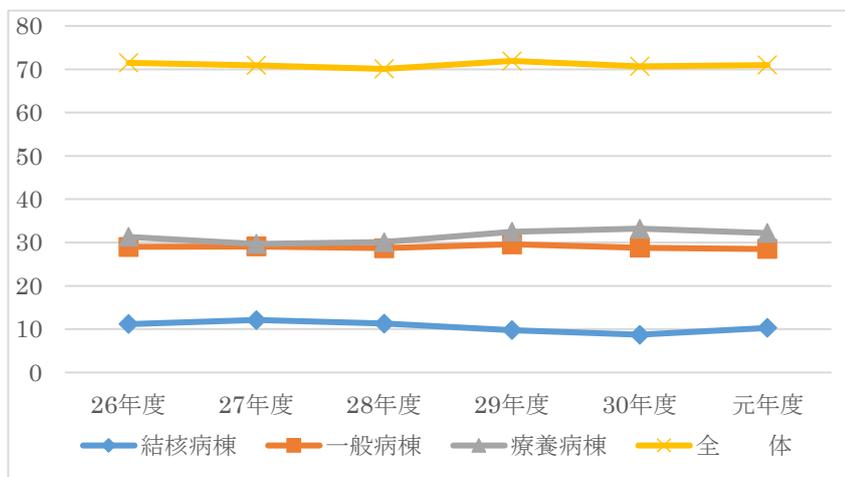
### 2) 状況

#### ① 年度別入院患者の状況 (1日当たりの患者数)

(人)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
結核病棟	11.2	12.1	11.3	9.8	8.7	10.3
一般病棟	29.0	29.1	28.7	29.6	28.8	28.5
療養病棟	31.3	29.7	30.1	32.5	33.2	32.2
全 体	71.5	70.9	70.1	71.9	70.7	71.0

## ② 入院患者年度推移



## (3) リハビリテーション

各種リハビリ機器を備えた訓練室と理学療法士による専門的リハビリにより、QOLを高めるとともに機能回復に努めている。

本院は、呼吸器の専門病院でもあるため、COPDなど呼吸器疾患の患者に呼吸方法の指導や運動療法など、在宅での自己管理についても指導している。

## (4) 先進の医療機器による検査

早期発見、早期治療のため、電子内視鏡、超音波断層装置、CT、MRIを活用し、的確な診断のもとに治療を行っている。

## (5) 安全・安心な患者満足度の高い医療の提供

医療安全管理委員会、感染予防対策委員会などの各委員会の活性化を図り、安全・安心な医療サービスの提供に努めている。

また、小集団活動で病棟の清潔な環境確保等に取り組むとともに、高齢者にも食べやすく美味しいソフト食の提供など調理方法の工夫を行っている。

## (6) 地域連携の推進

地域連携室を設け、地域の病院や診療所と連携し、紹介患者のスムーズな受け入れに努めており、入院患者の約7割が地域の病院・診療所からの紹介となっている。

また、開業医との連携を密にし、短期入院患者の受け入れに努めるとともに、平成22年度から退院支援調整室を設置し退院支援等を実施している。

(件)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
退院支援計画書作成件数	100	71	80	81	92	135
介護支援連携指導件数	54	49	51	57	84	120

## (7) 結核医療連携拠点病院の指定

平成25年2月に岡山県から結核診療連携拠点病院に指定され、結核患者への高度医療提供、研修会の開催、医療機関からの相談等を行っている。

相談件数

(件)

相談機関	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
病院	31	36	51	64	42	50
診療所	6	12	14	12	13	5
高齢者施設	3	3			3	4
保健所	5	4	3			1
大学、学校	1	1		2	1	
その他	8	2	8		5	1
計	54	58	76	78	64	61

## (8) 指導・相談

### 1) 医療相談

医療ソーシャルワーカーを中心に、入院相談や退院支援を行うとともに、地域医療機関や老健・介護保健施設との連携に努めている。

また、患者サポート体制の充実に取り組み、入院、外来患者の心理的・経済的な相談・支援に取り組んでいる。

### 2) 服薬指導

薬剤師が正しい薬の知識をわかりやすく説明している。また、症状にあった正しい服薬について指導を行っている。

### 3) 栄養指導

管理栄養士が個人の病状にあった、実行可能で長続きする食事療法の指導を行っている。

#### 服薬・栄養指導件数

(件)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
服薬指導	702	642	247	451	409	375
栄養指導	527	554	621	595	615	441

### (9) 財団各部門との連携

人間ドック、保健部、南部健康づくりセンターと連携し、地域住民の生活習慣病予防対策に取り組んでいる。

### (10) 難病相談・支援事業

岡山県から「岡山県難病相談・支援センター業務」を受託し（平成16年10月～）、難病患者やその家族からの療養上の悩みや不安、就労等に関する相談に対応している。

#### 相談件数

(件)

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
電話相談	799	561	722	609	492	404
面接相談	146	150	250	177	112	95
メール相談	114	72	102	58	41	69
合計	1,059	783	1,074	844	645	568

#### 交流会、研修会の開催

定例患者交流会等（平成26年度 29回、平成27年度 30回、  
平成28年度 31回、平成29年度 30回、  
平成30年度 30回、令和 元年度 28回）

## 6 南部健康づくりセンター

南部健康づくりセンターは、健康増進に関する実践の場の提供と調査・研究等を行う健康づくりの拠点施設として岡山県が整備した施設であり、当財団が県からの指定管理を受け、プール・ジム・スタジオを備えた健康増進施設を管理・運営するとともに、健康増進に係る教育・研修事業、調査・研究事業などを行っている。

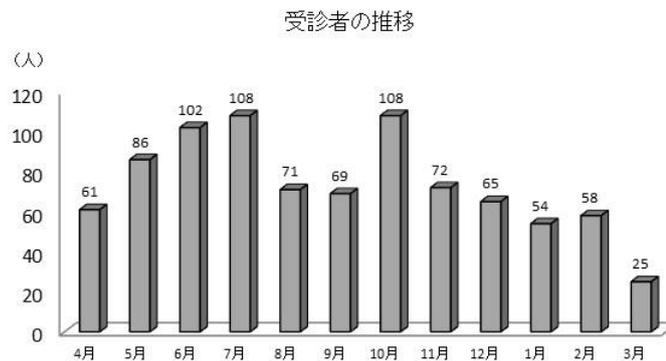
### (1) 健康増進事業

#### 1. ヘルスチェックの状況

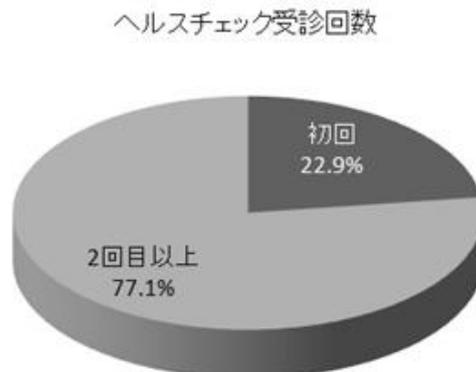
健康増進施設は会員制としており、入会時および入会后1年ごとに利用者の運動能力・機能の測定と健康状態の確認（ヘルスチェック・メディカルチェック）を行い、利用者の方々に安全に施設を利用していただくとともに、健康増進に役立てていただけるように、運動・食事・休養の三分野にわたる運動指導・健康指導を実施している。

#### 1) 受診者の推移

ヘルスチェック受診者は年間879人、1ヵ月平均73人であった。

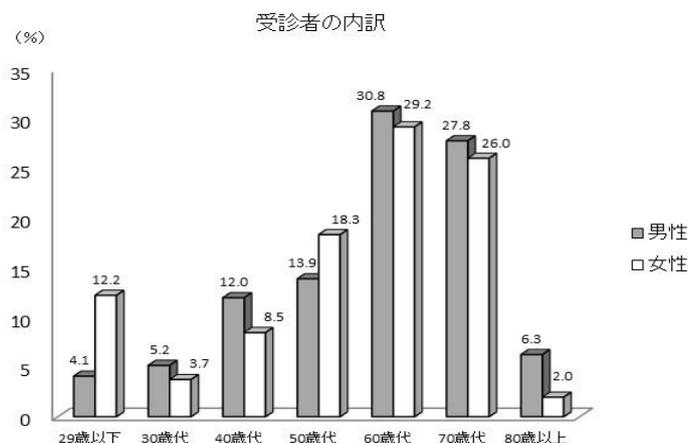


ヘルスチェックの受診回数は、初回（入会時）が22.9%、2回目以上が77.1%であった。



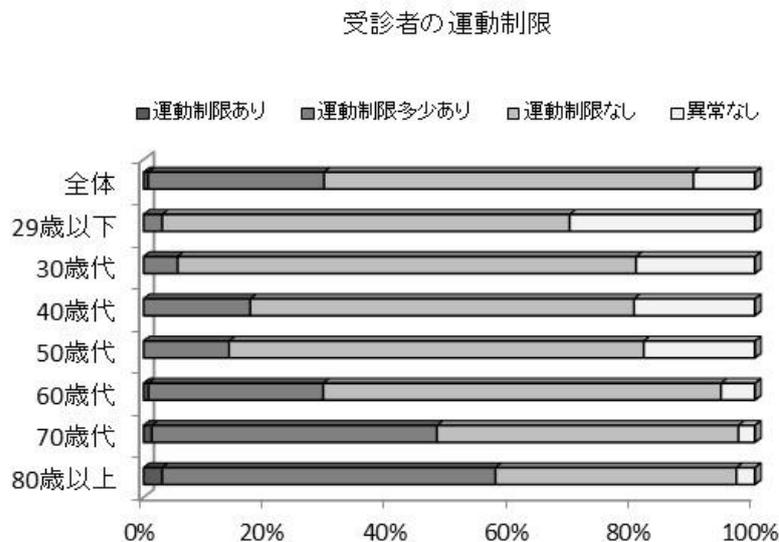
## 2) 受診者の内訳

ヘルスチェック受診者の内訳を性別で見ると男性が 42.0%、女性が 58.0%であった。年代別で見ると男性、女性ともに 60 歳代が最も多かった。

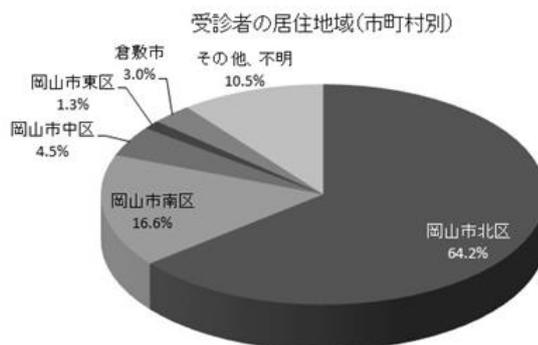


上記のように当施設の利用者には高齢者が多く、内科的疾患、整形外科的疾患などで治療中の人も少なくない。このため、疾病の有無を確認するとともに、疾病がある場合には何らかの運動制限が必要かどうかを判定し、利用者に安全に運動を行っていただけるよう指導している。

その運動制限の程度をみると、何らかの運動制限のあった人は全体では 29.5%であったが、60 歳代では 29.4%、70 歳代では 47.9%、80 歳代では 57.5%であった。

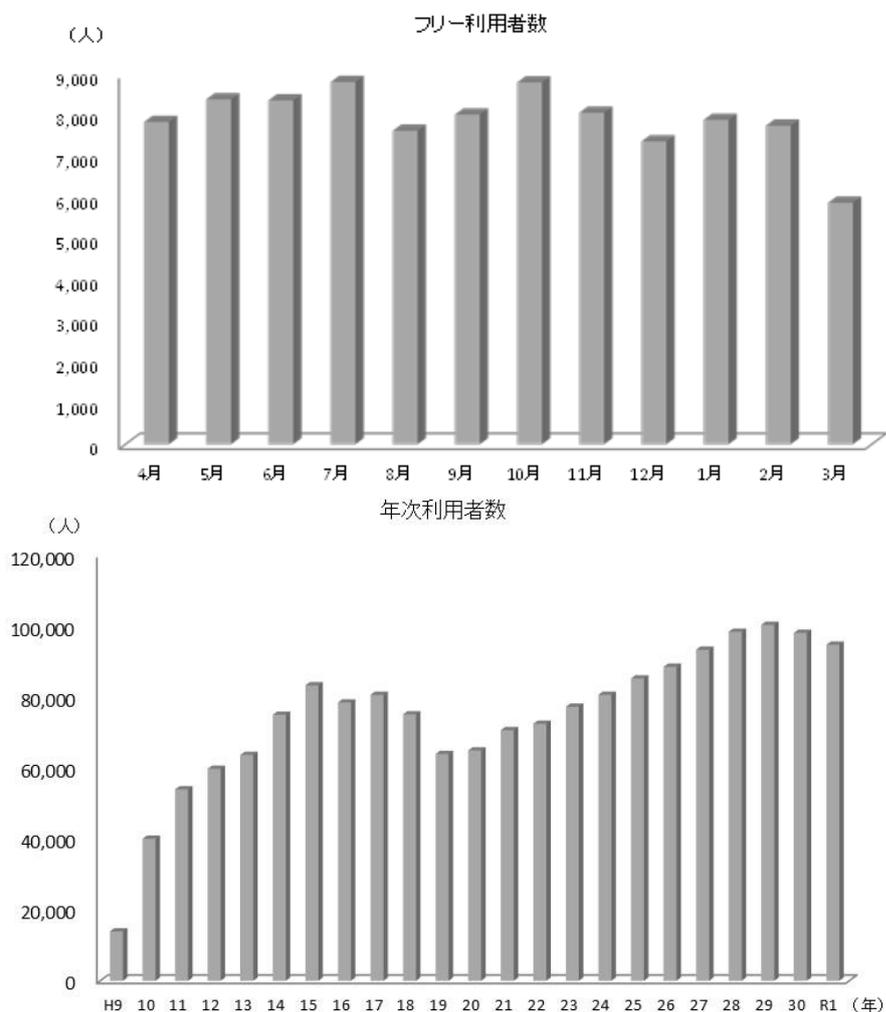


ヘルスチェック受診者の居住地を市町村別にみると、全受診者のうち 86.6%が岡山市に在住し、ついで倉敷市が多かった。



## 2. 増進施設利用状況

増進施設会員の延べ利用者数とビジター（利用当日のみの利用者）の延べ利用者数の合計は、年間 94,792 人、1 ヶ月平均 7,899 人、1 日平均 303 人であった。



※なお、平成 30 年度は集計方法変更（同一会員が 1 日に複数回利用した場合の集計を 1 回に変更）のため、また、令和元年度は年度末（令和 2 年 2 月・3 月）のコロナ禍のために、前年度よりも利用者数が減少している。

### 3. お手軽教室

増進施設の会員を対象として、無料で自由に参加できる運動教室を施設内のプール・スタジオ・ジムで開講している。

#### 1) 教室内容

年間で計 78 教室を毎週 1 回以上開講した。

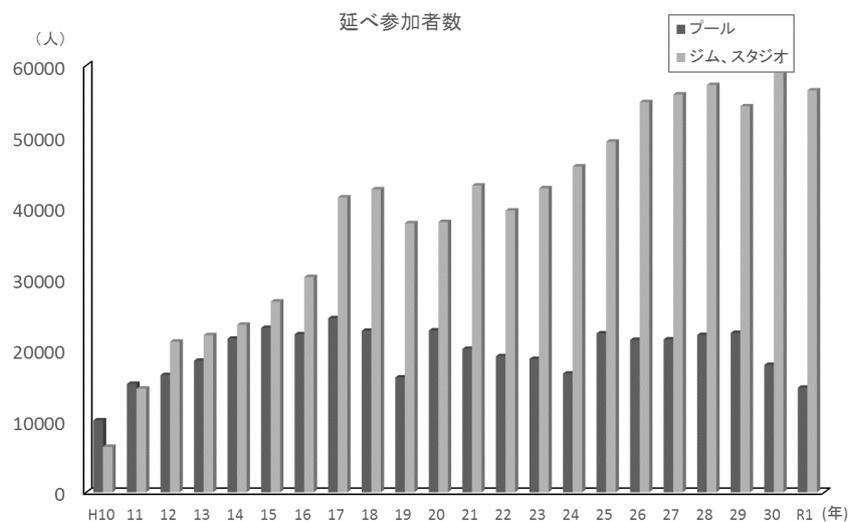
週あたりのお手軽教室開講数 (令和元年 11 月現在)

水泳	超初級	1
	超初級・初級	3
	超初級・初級(クロール)	1
	初級 (週の泳法)	2
	初級・中級 (週の泳法)	2
	初級・中級 (おまかせ)	1
	中級 (週の泳法)	1
	中上級 (インターバル)	2
	レッツ四泳法中級	1
	ステップアップ四泳法中上級	1
	上級 (週の泳法)	1
	上級(四泳法)	1
	スキルアップ四泳法上級	1
	上級 (おまかせ)	1
	水中運動	膝腰スッキリ水中運動
アクアサーキット		1
アクアビクス		2
エンジョイアクア		1
エアロビックダンス	初心者エアロ	1
	シンプルエアロ	1
	かんたんエアロ	2
	やさしいエアロ	4
	ちょっとがんばるエアロ	3
	オリジナルエアロ	2
	なかなかエアロ	2
	ダンスエアロ	1
ジム	ラジオ体操	1
	膝腰スッキリマット	2
	ダンベル体操	1
	ひきしめステップ	1
	スッキリ体操	1
	おまかせマット	1
	すわって健脚ストレッチ	1
	すわって健脚体操	2
	すわってスッキリ体操	1

	すわってルンルンビクス しっかり元気健脚 やさしいステップ エンジョイステップ すっきりストレッチ ひきしめボディ ひきしめサーキット レッツジョギング	1 1 1 1 1 2 1 1
太極拳	はじめての太極拳 太極拳 太極養生体操	1 1 1
その他	ストレッチポール マットオリジナル ストレッチヨガ オリジナルヨガ リフレッシュヨガ パワーヨガ シェイプヨガ バレトン or ポル・ド・ブラ オリジナルヨガ or ピラティス ピラティス エンジョイフラ アルティメットボクシング	2 1 2 1 1 1 1 1 1 1 2 1

## 2) 参加者の推移

お手軽教室の延べ参加者数は、71,229 人であった。プール教室の延べ参加者数は 14,716 人と、全体の約 2 割であった。



#### 4. 健康づくり栄養講座及び外部講師料理教室

食事を通じた健康づくりの普及・発展に資するために、南部健康づくりセンター内で栄養講座・料理教室を開催している。

健康づくり栄養講座は、全 12 回の開催で延べ 139 名の参加者、初心者のための栄養講座は、全 10 回の開催で延べ 85 名の参加者があった。外部講師による料理教室は、全 8 回の開催で延べ 101 人の参加があった。

##### 健康づくり栄養講座

開催日	テーマ	講話内容	参加人数
4月17日	春野菜たっぷり 和のおかず	筋力アップの食事	15
4月19日			10
6月19日	旬のごちそう ハーブ料理	ハーブの効能	13
6月21日			9
8月28日	スタミナつけよう 中華料理	発酵食品について	11
8月30日			12
10月11日	秋におすすめ！おもてなし料理	高血圧予防の食事について	14
10月16日			7
12月11日	お正月を彩る おせち料理	間食の上手なとり方	14
12月13日			14
2月5日	寒い時期に食べたい 根菜料理	根菜について知ろう	12
2月7日			8

##### 初心者のための栄養講座

開催日	テーマ	参加人数
5月11日	キャベツを使ったアレンジ料理	10
5月15日		6
7月17日	じゃがいもを使ったアレンジ料理	5
7月20日		12
9月18日	ひとつの食材をアレンジして いろいろなレシピを紹介	2
9月21日		14
11月13日	白菜を使ったアレンジ料理	9
11月16日		9
1月15日	缶詰を使ったアレンジ料理	10
1月25日		8

## 外部講師料理教室

開催日	テーマ	内容	参加人数
5月24日	いつもの料理をおしゃれに変身♡ 小野靖子先生の料理教室	【野菜の日】 ブロッコリーのポタージュ、パプリカとモッツァレラのマリネ、豚肉と野菜のハーブ焼き、全粒粉のベーグル	13
6月28日		【エスニックの日】 生春巻き、インドネシア風チキンサラダ、海鮮のチヂミ、コーンパン	16
7月26日		【カレーの日】 ナン、豆のドライカレー、さっぱりサラダ、甘いマンゴーラッシー	8
9月27日	小野靖子先生の料理教室	【秋のイタリアン】 グリッシーニ、鶏肉とオリーブの白ワイン煮、ティラミス	14
10月25日		【クレープでブランチ・好きな具をはさみましょう！】 ツナマヨサラダ、チョコバナナ、たっぷりきのこチキンのスープ	13
11月22日		【秋の味覚を愉しむ】 ミルクフランスパン、キッシュ（鶏もも肉×サツマイモ×きのこ）、大きめ野菜のポトフ、柚子のレアチーズ	14
1月24日	小野靖子先生の料理教室	【バレンタイン2020】 生姜の効いたガトーショコラ、生姜ジャム（紅茶やパンにつけて）	9
2月28日		【嬉しいひな祭り女子会】 林檎のクランブルケーキ、ワンプレートランチ（美味しい常備菜）	14

## 5. リラクゼーションセミナー

健康増進のためには食事・運動とともに休養も重要である。そこで休養を通じた健康づくりの普及・発展に資するために、南部健康づくりセンター内でリラクゼーションセミナーを開催している。

リンパマッサージのテーマで外部講師を招き、6回実施した。各教室90分間で、テーマに沿った講話やリラクゼーション実技を行った。延べ43名の参加があり、女性の参加が多く、年齢は20歳代～70歳代と幅広かった。

日時	テーマ	参加人数
4月19日	変化の多い時期にこそ 癒し時間のためのセルフマッサージ	2
6月21日	暑くなる前に！ リフレクソロジーで早めのむくみ対策	4
8月30日	夏バテで元気がでない！？ おすすめ腸セラピー	5
10月23日	秋の夜長のリラックスに ハンドマッサージ	9
12月11日	肩こり・首こり 緩和マッサージ	11
2月26日	髪もアンチエイジング ヘッドマッサージ	12

## 6. 健康増進指導体験事業

地域における健康増進の中心的役割を担うグループ・人々を対象に、運動・食事・休養にもとづいた健康増進のための指導を体験してもらい、地域での展開に資することを目的として健康増進指導体験事業を行っている。

年間の利用件数は3件、利用者数は58名であった。

開催日	参加団体名	コース	参加人数
11月7日	鏡野町栄養委員会	運動	17
11月20日	真庭市愛育委員会蒜山支部	運動	26
12月3日	高梁市栄養改善協議会連合会川上支部	運動	15

## (2) 教育・研修事業など

### 1. 講師派遣事業

岡山県内の各種団体・企業からの依頼を受け、健康増進のための運動・食事・休養などについての講演・セミナーなどの講師として、南部健康づくりセンター内の職員を派遣した。

年間を通して40件の派遣依頼を受託した。

実施日	実施元	人数	会名・講座名	派遣者
4/15	中国民放クラブ岡山支部	40	中国民放クラブ岡山支部2019年総会	森下 明恵
5/9	岡山県難病相談・支援センター	9	患者交流会 栄養講座	国橋 由美子
5/10	クラレ健康保険組合	80	ロコモチャレンジ	森下 明恵
5/14	クラレ健康保険組合	50	ロコモチャレンジ	森下 明恵
5/16	中国電力㈱岡山支社	60	年代別健康づくり教育 年度年齢50才の社員	高橋 卓也
5/17	中国電力㈱岡山支社	56	年代別健康づくり教育 年度年齢30・40才の社員	斉藤 剛
5/22	クラレ健康保険組合	100	ロコモチャレンジ	森下 明恵
6/4	美作県民局勝英地域事務所	30	健康管理セミナー 上手な心と体の休め方～お風呂でリフレッシュ～	後藤 礼子
6/13	岡山県難病相談・支援センター	6	患者交流会 のびのびストレッチ	高橋 卓也
6/20	㈱メック	50	安全大会	高橋 卓也
7/26	特別養護老人ホーム 喜福園	35	職員研修 腰痛予防体操の講座	高槻 祐子
7/31	岡山市教育委員会	20	特殊検診 腰痛予防改善教室 姿勢リセットで腰痛改善!	高槻 祐子
8/8	岡山県難病相談・支援センター	5	患者交流会 栄養講座	豊田 加奈子
8/22	岡山市教育委員会	20	特殊検診 腰痛予防改善教室 姿勢リセットで腰痛改善!	高槻 祐子

9/3	電源開発株	21	THP 事業 出張体力測定	川上 和真
9/12	船員災害防止協会 岡山県地区支部	50	船員災害防止大会	後藤 礼子
10/1	(独)高年齢・障害・求職者雇用支援機構 岡山支部	20	健康講話 「ロコモティブシンドローム(運動器症候群)の危険性・予防法」	高槻 祐子
10/2	電源開発株	20	THP 事業 メンタルヘルスについて講演 アロマテラピーによるリラクゼーション効果について	後藤 礼子
10/10	岡山県難病相談・支援センター	5	患者交流会 のびのびストレッチ	高橋 卓也
10/31	地方職員共済組合岡山県支部	15	健康教室	斉藤 剛
11/2	(公社)岡山県医師会	200	産業医研修会 「健康づくりのための栄養指導～働く世代の健康課題～」	国橋 由美子
11/5	地方職員共済組合岡山県支部	10	健康教室	斉藤 剛
11/15	地方職員共済組合岡山県支部	30	健康教室	斉藤 剛
11/21	岡山っ子育成局子育て支援部 こども企画総務課	6	特殊検診 腰痛予防改善教室 姿勢リセットで腰痛改善!!	森下 明恵
11/22	(株)岡山和気ヤクルト工場	66	体力測定	高橋 卓也 川上 和真
11/28	岡山っ子育成局子育て支援部 こども企画総務課	12	特殊検診 腰痛予防改善教室 姿勢リセットで腰痛改善!!	森下 明恵
11/29	(株)岡山和気ヤクルト工場	68	体力測定	高橋 卓也 川上 和真
12/5	備前市保健課健康係	6	特定保健指導(積極的支援・動機付け支援) 講話・運動指導「スキマ時間でコツコツ痩せる身体こ！」	高橋 卓也
12/12	地方職員共済組合岡山県支部	30	健康教室	後藤 礼子
12/19	地方職員共済組合岡山県支部	7	健康教室	斉藤 剛
12/26	アサヒ飲料(株)岡山工場	20	禁煙セミナー	後藤 礼子
1/9	備前市保健課健康係	4	講話・運動指導「内臓脂肪撃退！効果的な有酸素運動」	高橋 卓也
1/28	岡山県工業技術センター	20	健康教室	国橋 由美子
1/30	(公財) 岡山県シルバー人材センター連合会	200	令和元年度高齢者活躍人材確保育成事業 「人生100年時代、60歳からの素敵な生き方・働き方セミナー」	斉藤 剛 後藤 礼子
2/6	備前市保健課健康係	7	講話・運動指導 「代謝アップでさらに脂肪燃焼！筋肉を育てよう」	高橋 卓也
2/12	(株)三井E&S健康保険組合	40	体力測定、食事の講話、運動の講話、運動実践	国橋 由美子 川上 和真
2/19	異業種交流会 マスカット会	23	2月例会 食事とアルコールについて	豊田 加奈子
2/20	備前市吉永地区老人クラブ連合会	50	健康体操講習会	高橋 卓也

2/28	(公財)岡山県産業振興財団	30	メンタルヘルス研修	後藤 礼子
3/6	(公財)岡山県産業振興財団	30	メンタルヘルス研修	後藤 礼子

## 2. 図書の貸し出し（沼田文庫）

一般書から専門書まで健康増進に係る図書を整備し、閲覧・貸出できようになっている。  
令和元年度で貸し出しを受けた人数、貸し出された図書の冊数は、1年間で279名、451冊の利用があった。なお、データの有効性などを鑑み、発行から20年以上経過した図書95冊を除却した。また令和元年度分として3月に31冊を購入した。

## 3. 大会議室・小会議室・栄養指導室・多目的聴講室

南部健康づくりセンター内の会議室の貸し出しを行っている。なお、新型コロナウイルス感染対策のため、令和2年3月は外部への貸し出しを停止した。

### 1) 大会議室

貸し出し件数は、年間19件であった。

### 2) 小会議室

貸し出し件数は、年間57件であった。

### 3) 栄養指導室

貸し出し件数は、年間10件であった。

### 4) 多目的聴講室

貸し出し件数は、年間9件であった。

## 4. 研究室の開放

南部健康づくりセンター内の研究室の年間契約による貸し出しを行っている。貸し出し件数は、年間2件であった。

## (3) 調査・研究事業

### 1. 業績

#### 1) 論文

ア 慢性腎臓病、座位行動と健康関連 Quality of Life(QOL) との関連

宮武伸行、青山友子、国橋由美子、関明穂（地域環境保健福祉研究 22：29-32, 2019）

イ Does physical activity attenuate the association between birth weight

and glycated hemoglobin in nondiabetic Japanese women?

Tomoko Aoyama, Nobuyuki Miyatake, Akiho Seki, Kouji Hossaka, Hidemi Takimoto, Shigeo Tanaka (Journal of Developmental Origins of Health and Disease 18: 1-5, 2019.)

ウ 教職員における医療との連携への意識と実態

服部瑠衣、周宇、檜野千明、関明穂、中塚幹也 (GID(性同一性障害)学会雑誌 12:31-40, 2019)

## 2) 学会発表

ア 生活習慣病関連疾患において受診勧奨方法が精密検査受診率や次年度検査成績に及ぼす影響の検討

佐々木佐起子、後藤礼子、中川邦弘、栗原文子、関明穂 (第 60 回日本人間ドック学会学術大会、2019 年 7 月 25~26 日、岡山県)

イ 結果報告書作成の際の点検作業を支援するソフトウェアの設計・構築

関明穂、難波澄恵、切山涼子、羽田美和、正本幸美、栗原文子、佐々木佐起子 (第 60 回日本人間ドック学会学術大会、2019 年 7 月 25~26 日、岡山県)

ウ 1 年間の運動継続が及ぼす効果

豊田加奈子、国橋由美子、後藤礼子、森下明恵、関明穂 (第 26 回岡山県保健福祉学会、2020 年 1 月 27 日、岡山県)

## 3) 講演

ア 子どもたちの多様な性のありかたに向き合うために

関明穂 (令和元年度岐阜県養護教諭会講演会、2019 年 8 月 2 日、各務原市文化ホール、岐阜県)

## (4) 健康診断（人間ドック）部門

### 1. 人間ドック

#### 1) 受診者の内訳

年間で10,392件(男性6,145人、女性4,202人、計10,347人)の受診があり、前年度比104.0%の受診者数となった。

#### 2) 検査項目別

部位・臓器・検査方法別の検査結果を以下に示す。

なお、現在医療機関でそれぞれの検査項目に関して治療中か経過観察中のものを「治療中」とした。それ以外のもののうち、検査項目内の結果がすべて正常であったものを「異常なし」、いずれかの検査結果が正常範囲からはずれているが問題ない範囲のものを「有所見」、経過観察が必要なものを「要観察」、医療機関での精密検査あるいは治療を要するものをそれぞれ「要精検」「要治療」とした。

また、「異常なし」「有所見」以外のものをまとめて「要観察以上」、検診によって新たに医療を要することが指摘された「要精検」「要治療」をまとめて「要医療」とし、各検査項目の受診者全体に対する「要観察以上」「要医療」のものの割合を算出した。

#### ① 肥満度

BMI18.5未満を低体重、18.5以上25.0未満を普通体重、25.0以上30.0未満を肥満1度、30.0以上35.0未満を肥満2度、35.0以上40.0未満を肥満3度、40.0以上を肥満4度とした。

肥満1度以上のものは男性2,221人(36.3%)、女性747人(22.0%)であった。

	受診者数	低体重	普通体重	肥満1度	肥満2度	肥満3度	肥満4度
		-18.49	18.5-24.9	25.0-29.9	30-34.9	35-39.9	40-
男性(人)	6,112	187 (3.1%)	3,704 (60.6%)	1,818 (29.7%)	324 (5.3%)	62 (1.0%)	17 (0.3%)
女性(人)	3,393	373 (11.0%)	2,273 (67.0%)	572 (16.9%)	136 (4.0%)	32 (0.9%)	7 (0.2%)

## ② 血圧

収縮期血圧 134mmHg 以下、拡張期血圧 85mmHg 以下を正常値、収縮期血圧 139mmHg 以下、拡張期血圧 89mmHg 以下を参考基準値とし、「治療中」ではないもので収縮期血圧、拡張期血圧ともに正常値であるものを「異常なし」、いずれかが正常値を超えるものの参考基準値は超えないものを「有所見」とした。

男性の 1,758 人 (28.8%)、女性の 479 人 (14.2%) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 1,131 人 (18.5%)、女性 294 人 (8.7%)、「要医療」のものは男性 170 人 (2.8%)、女性 45 人 (1.3%) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	6,103	3,845 (63.0%)	500 (8.2%)	457 (7.5%)	0 (0.0%)	170 (2.8%)	1,131 (18.5%)
女性(人)	3,382	2,725 (80.6%)	178 (5.3%)	140 (4.1%)	0 (0.0%)	45 (1.3%)	294 (8.7%)

## ③ 心電図

男性の 499 人 (8.2%)、女性の 148 人 (4.4%) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 191 人 (3.1%)、女性 38 人 (1.1%)、「要医療」のものは男性 35 人 (0.6%)、女性 12 人 (0.4%) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	6,090	4,596 (75.5%)	995 (16.3%)	273 (4.5%)	33 (0.5%)	2 (0.0%)	191 (3.1%)
女性(人)	3,359	2,742 (81.6%)	469 (14.0%)	98 (2.9%)	12 (0.4%)	0 (0.0%)	38 (1.1%)

## ④ 検尿

男性の 1,074 人 (17.6%)、女性の 1,070 人 (31.8%) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性 88 人 (1.4%)、女性 22 人 (0.7%)、「要医療」のものは男性 152 人 (2.5%)、女性 237 人 (7.0%) であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	6,091	4,054 (66.6%)	963 (15.8%)	834 (13.7%)	150 (2.5%)	2 (0.0%)	88 (1.4%)
女性(人)	3,362	1,393 (41.4%)	899 (26.7%)	811 (24.1%)	237 (7.0%)	0 (0.0%)	22 (0.7%)

⑤ 肝機能

男性の1,620人(26.6%)、女性の347人(10.3%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性292人(4.8%)、女性68人(2.0%)、「要医療」のものは男性394人(6.5%)、女性80人(2.4%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	6,090	2,773 (45.5%)	1,697 (27.9%)	934 (15.3%)	394 (6.5%)	0 (0.0%)	292 (4.8%)
女性(人)	3,362	2,369 (70.5%)	646 (19.2%)	199 (5.9%)	80 (2.4%)	0 (0.0%)	68 (2.0%)

⑥ 脂質異常症

男性の3,453人(56.7%)、女性の1,476人(43.8%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性996人(16.3%)、女性405人(12.0%)、「要医療」のものは男性459人(7.5%)、女性191人(5.7%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	6,093	1,235 (20.3%)	1,405 (23.1%)	1,998 (32.8%)	0 (0.0%)	459 (7.5%)	996 (16.3%)
女性(人)	3,369	997 (29.6%)	896 (26.6%)	880 (26.1%)	1 (0.0%)	190 (5.6%)	405 (12.0%)

⑦ 耐糖能異常

男性の1,454人(23.9%)、女性の333人(9.9%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性554人(9.1%)、女性91人(2.7%)、「要医療」のものは男性195人(3.2%)、女性46人(1.4%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	6,093	2,657 (43.6%)	1,982 (32.5%)	705 (11.6%)	112 (1.8%)	83 (1.4%)	554 (9.1%)
女性(人)	3,369	2,235 (66.3%)	801 (23.8%)	196 (5.8%)	24 (0.7%)	22 (0.7%)	91 (2.7%)

⑧ 尿酸

男性の1,783人(29.6%)、女性の60人(1.8%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性551人(9.1%)、女性8人(0.2%)、「要医療」のものは男性66人(1.1%)、女性0人(0.0%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	6,030	4,235 (70.2%)	12 (0.2%)	1,166 (19.3%)	0 (0.0%)	66 (1.1%)	551 (9.1%)
女性(人)	3,334	3,266 (98.0%)	8 (0.2%)	52 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (0.2%)

⑨ 血液一般

男性の778人(12.8%)、女性の710人(21.1%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性35人(0.6%)、女性77人(2.3%)、「要医療」のものは男性208人(3.4%)、女性225人(6.7%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	6,090	3,559 (58.4%)	1,753 (28.8%)	535 (8.8%)	200 (3.3%)	8 (0.1%)	35 (0.6%)
女性(人)	3,362	1,853 (55.1%)	799 (23.8%)	408 (12.1%)	163 (4.8%)	62 (1.8%)	77 (2.3%)

⑩ 超音波検査

腹部超音波検査により肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、脾臓等の検査を行った。

男性の1,816人(56.0%)、女性の696人(39.7%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性12人(0.4%)、女性6人(0.3%)、「要医療」のものは男性45人(1.4%)、女性18人(1.0%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	3,244	759 (23.4%)	669 (20.6%)	1,759 (54.2%)	45 (1.4%)	0 (0.0%)	12 (0.4%)
女性(人)	1,752	687 (39.2%)	369 (21.1%)	672 (38.4%)	18 (1.0%)	0 (0.0%)	6 (0.3%)

⑪ 胸部X線検査

CR装置による直接撮影を行った。

男性の342人(5.6%)、女性の109人(3.3%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性67人(1.1%)、女性29人(0.9%)、「要医療」のものは男性137人(2.3%)、女性54人(1.6%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	6,078	4,908 (80.8%)	828 (13.6%)	138 (2.3%)	137 (2.3%)	0 (0.0%)	67 (1.1%)
女性(人)	3,315	2,887 (87.1%)	319 (9.6%)	26 (0.8%)	54 (1.6%)	0 (0.0%)	29 (0.9%)

⑫ 胃部造影検査

DR装置による直接撮影を行った。

男性の1,892人(34.0%)、女性の692人(25.1%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性5人(0.1%)、女性2人(0.1%)、「要医療」のものは男性153人(2.8%)、女性46人(1.7%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	5,558	2,620 (47.1%)	1,046 (18.8%)	1,734 (31.2%)	146 (2.6%)	7 (0.1%)	5 (0.1%)
女性(人)	2,759	1,104 (40.0%)	963 (34.9%)	644 (23.3%)	46 (1.1%)	0 (0.0%)	2 (0.1%)

⑬ 骨密度検査

DXA法により第2～第4腰椎正面の骨密度を測定した。

男性の11人(47.8%)、女性の185人(73.1%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性0人(0.0%)、女性29人(11.5%)、「要医療」のものは男性3人(13.0%)、女性15人(5.9%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	23	12 (52.2%)	0 (0.0%)	8 (34.8%)	3 (13.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
女性(人)	253	68 (26.9%)	0 (0.0%)	141 (55.7%)	15 (5.9%)	0 (0.0%)	29 (11.5%)

### 3) 婦人科検診

#### ① 乳がん検診

乳がん検診として、視触診とマンモグラフィ、乳房超音波検査とを行った。

乳がん検診の総受診者数は 2,753 人であり、そのうち、マンモグラフィ受診者は 1,915 人であった。乳がん検診受診者の 244 人 (8.9%) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは 21 人 (0.8%)、「要医療」のものは 113 人 (4.1%) であった。マンモグラフィも実施したものに限り、104 人 (5.4%) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは 7 人 (0.4%)、「要医療」のものは 87 人 (4.5%) であった。

乳がん検診	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
女性(人)	2,753	733 (26.6%)	1,776 (64.5%)	110 (4.0%)	113 (4.1%)	0 (0.0%)	21 (0.8%)
マンモグラフィ	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
女性(人)	1,915	413 (21.6%)	1,398 (73.0%)	10 (0.5%)	87 (4.5%)	0 (0.0%)	7 (0.4%)

#### ② 子宮がん検診

子宮がん検診として、子宮頸部細胞診と婦人科診察、経膈超音波検査を行った。子宮頸部細胞診では class I、II を正常とし、class IIIa 以上を「要精検」とした。

子宮がん検診の受診者数は 2,363 人であった。

受診者の 399 人 (16.9%) が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは 34 人 (1.4%)、「要医療」のものは 222 人 (9.4%) であった。なお、子宮頸部細胞診で「要精検」であったものは 49 人 (2.1%) であった。

子宮がん検診	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
女性(人)	2,363	1,959 (82.9%)	5 (0.2%)	143 (6.1%)	164 (6.9%)	58 (2.5%)	34 (1.4%)

## 2. 脳ドック

脳ドックの受診者数は318人(男性216人、女性102人)であった。

男性の19人(8.8%)、女性の10人(9.8%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性0人(0.0%)、女性1人(1.0%)、「要医療」のものは男性6人(2.8%)、女7人(6.9%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	216	107 (49.5%)	90 (41.7%)	13 (6.0%)	6 (2.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
女性(人)	102	57 (55.9%)	35 (34.3%)	2 (2.0%)	7 (6.9%)	0 (0.0%)	1 (1.0%)

## 3. らせんCT胸部検診

らせんCT胸部検診は、肺がんの早期発見に威力を発揮することが注目されて普及し、着実に受診者に浸透しつつある。今後も慢性閉塞性肺疾患(COPD)などの呼吸器疾患の早期発見や、禁煙への動機づけにも有効であるため、普及啓発に今後とも力を注いでいくことが重要とされている。

らせんCT胸部検診の受診者数は294人(男性251人、女性43人)であった。

男性の55人(21.9%)、女性の13人(30.2%)が「要観察以上」であり、そのうち「治療中」のものは男性3人(1.2%)、女性0人(0.0%)、「要医療」のものは男性15人(6.0%)女性8人(18.6%)であった。

	受診者数	異常なし	有所見	要観察	要精検	要治療	治療中
男性(人)	251	27 (10.8%)	169 (67.3%)	37 (14.7%)	15 (6.0%)	0 (0.0%)	3 (1.2%)
女性(人)	43	4 (9.3%)	26 (60.5%)	5 (11.6%)	8 (18.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

## (5) 健康診断(施設健診)部門

平成 30 年 4 月より附属病院の健康診断部門を引き継ぎ、事業所法定健診・特殊健診・特定健診・後期高齢者健診・岡山市がん検診等を実施している。

### 1. 健診種別件数

(人)

事業所健診 (一般定期)	事業所健診 (特 殊)	個人健診 雇入れ健診	岡山市がん検診 (胃・大腸・肺)	特定健診	後期高齢者 健診
3,567	346	395	821	733	44

### 2. 岡山市がん検診要精密検査数

(人)

種 別	受診者数	要精検者数
胃がん(胃 XP 検査)	96	2
胃がん(胃内視鏡)	45	2
肺がん	350	14
大腸がん	330	23

### 3. 特定健診保健指導対象者数

(人)

健康保険組合名	実施者数	動機づけ支援	積極的支援
岡山市国民健康保険組合	337	32	9
全国健康保険協会(協会けんぽ)	314	17	2
日本私立学校振興・共済事業団	82	8	1

## 7 普及啓発事業

### (1) 財団の広報

ホームページの更新、広報誌の発行、他団体広報誌へ記事の提供等を通して、財団の広報に努めた。

#### 1) 広報誌の発行

広報誌「健康と環境」を年3回発行し、事業の紹介と県民の健康づくり、環境保全に関する意識の高揚を図った。

- ・発行部数 第77号 5,000部 (4月20日発行)  
第78号 5,000部 (8月20日発行)  
第79号 5,000部 (12月20日発行)
- ・主要配布先 県、市町村、教育委員会、学校、警察署、保健所、近隣町内会、  
医師会、病院協会、福祉施設、事業所等

#### 2) ホームページ更新

財団ホームページに、財団の事業紹介、健康情報・生活環境に関する情報提供、セミナーや教室の案内、各種行事の予定等を随時更新し、紹介した。

### (2) 結核予防に関する事業

結核は、約60年前までは、死亡原因の第一位であったが医療や生活水準の向上により、薬による完治が可能になった。しかし依然として岡山県においても年間約200名の患者が発生する重大な感染症であることから啓発活動を行っている。

#### 1) 広報・募金活動

結核予防思想の普及と事業資金確保のため世界中で行われている複十字シール運動(8月1日～12月31日)について、県、市町村及び岡山県愛育委員連合会の協力を得て、積極的に普及啓発活動及び募金活動を実施した。また結核予防週間(9月24日～30日)を中心に結核予防に関するポスター(3,000部)等の広報資材を、保健所、市町村、病院等を通じて広く県民に配布し啓発に努めた。

期間中の大規模な街頭活動として、9月27日 JR 岡山駅東口階段下及び地下改札口付近において、県や市、岡山県愛育委員連合会、岡山県診療放射線技師会と共催で街頭キャンペーンを行った。このキャンペーンでは、結核撲滅の呼びかけを行うとともに、チラシ、ポケットティッシュ等の啓発資材(4,000組)を活用し募金を呼びかけた。

- ・募金額 2,084,781円（令和2年3月31日現在）
- ・募金の使途 胸部疾患予防思想の普及啓発事業

## 2) 知事表敬訪問

全国一斉複十字シール運動（8月1日～12月31日）の開始に合わせて、8月1日に理事長が岡山県結核予防婦人会・岡山県愛育委員連合会長とともに知事を表敬訪問し、結核の現状報告及び複十字シール運動への理解と協力を要請した。

## (3) がん予防に関する事業

### 1) 「がん征圧岡山県大会」の開催

9月2日、岡山県医師会館において県、岡山県医師会との共催により、「がん征圧岡山県大会」を約300名の参加を得て開催した。同大会では、がん対策功労者の表彰や、若手研究者に対する助成金の贈呈を行うとともに、「がん予防と早期発見ー子宮がんを中心にー」をテーマとする講演会を開催した。

### 2) キャンペーン放送の実施

岡山県医師会との共催により、山陽放送を通じて、テレビ2回、ラジオ2回のキャンペーン放送を実施した。

### 3) その他の啓発活動

がん征圧運動を一層推進するため、岡山市等が実施するイベントや大学の学園祭に積極的に協力し、がんに対する正しい知識の普及や予防意識の高揚に努めた。

乳がんについての啓発活動を行う「ピンクリボン岡山実行委員会」に参画するとともに、10月のピンクリボン運動月間に合わせて、10月14日にイオンモール岡山において、マンモグラフィ検診車による無料検診を実施した。

### 4) 募金

看護協会から寄せられた2,243,624円をはじめ、615件、3,762,499円の募金を頂き、対がん活動資金として活用した。

## (4) 禁煙の普及啓発に関する事業（岡山県禁煙問題協議会）

### 1) 街頭キャンペーンの実施

5月31日の世界禁煙デーを中心に「街頭キャンペーン」を県・市町村職員、愛育委員、禁煙アドバイザー等の協力を得て、岡山駅等県内64ヶ所において実施するなど、県民の方々に禁煙を呼びかけた。

### 2) ポスターコンクールの開催

県下の小学校4年生から6年生を対象に、禁煙啓発ポスターコンクールを主催し、作品を募集した。124名の応募の中から、入賞者8名を「がん征圧岡山県大会」で表彰するとともに、入賞作品を掲載したカレンダー2,800枚を作成し、学校等関係機関へ配布した。

### 3) 岡山県知事訪問

世界禁煙デーを前に、県下各地で実施する街頭活動の意義及び目的を県知事に説明し、協力頂くことを目的として表敬訪問した。

### 4) 講師の派遣

教育機関、一般企業等で開催された禁煙に関する研修等に、医師を講師として派遣し禁煙の啓発に努めた。

### 5) 教材等の貸出

たばこの害についてのチラシの配布や、スモーカーライザーを貸し出し、教育機関や一般企業独自の啓発活動を支援した。

### 6) 募金

禁煙普及啓発を推進するために、当協議会に360件479,000円の募金を頂いた。

## (5) 助成事業

### 1) がん助成

がんに関する研究・研修事業に対して対がん基金による助成を行った。

- ・腫瘍組織内の脂質量と免疫細胞の代謝変化による予後予測の検討  
岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 口腔顎顔面外科学分野  
助教 國定 勇希 氏
- ・癌転移を制御する新たなメカニズムの解明  
岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 腎・免疫・内分泌代謝内科学  
助教 松本 佳則 氏
- ・HER2遺伝子変異肺癌に対する最適なHER2標的治療法の開発  
岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 血液・腫瘍・呼吸器内科学  
助教 二宮 貴一朗 氏

### 2) 健康づくり関係団体への助成

県民の健康づくりを推進している、岡山県愛育委員連合会、岡山県栄養改善協議会等の関係団体に助成を行った。

## (6) 会議等の開催

区分	開催 年月日	会場	議題
会計監査 第1回会計監査 第2回会計監査	H31. 4. 24 R1. 5. 23	岡山県南部健康づくりセンター 研修室2 研修室2	1. 平成30年度決算について
業務監査	R1. 5. 27	岡山県南部健康づくりセンター 研修室2	1. 平成30年度事業実績について 2. 平成30年年度決算について
第1回理事会	R1. 6. 13	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 平成30年度事業報告 3. 平成30年度決算報告 4. 令和元年度第1回収支補正予算（案） 5. 定時評議委員会の招集（案）
定時評議員会	R1. 6. 28	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 平成30年度決算報告 2. 評議員の選任（案） 3. 理事の選任（案） 4. 平成30年度事業報告
臨時理事会	R1. 6. 28	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 理事長（代表理事）及び専務理事（業務執行理事）の選定
臨時理事会	R1. 9. 24	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 北部オフィス移転（案）
第2回理事会	R2. 3. 27	岡山県南部健康づくりセンター 大会議室	1. 公益財団法人岡山県健康づくり財団組織規則の一部改正（案） 2. 公益財団法人岡山県健康づくり財団就業規則の一部改正（案） 3. 令和2年度事業実施計画（案） 4. 令和2年度収支計画（案）



## 令和元年度 事業年報

発行 公益財団法人 岡山県健康づくり財団  
〒700-0952 岡山市北区平田 408-1  
TEL 086-246-6254 FAX 086-246-6258  
E-mail : zaidan@okakenko.jp